京城日報

卅一日夕刊

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金六拾五錢 [illegible]
廣告料 [illegible]
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 金口政太郎
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

時間表 [illegible]

汕頭の獨立宣言

某公使館着電に依れば汕頭鎭守使は三十日午前一時獨立を宣言したり（北京特電）

馮將軍肯ぜず

北京來電に據れば段芝貴等五將軍は馮將軍に對し袁總統留任の主張者たらん事を求めしも馮將軍は之を肯ぜざりしと（東京電報）

袁總統踏止說

各省總督の贊成

北京來電に據れば一旦辭意を洩したる袁總統は再び意志を飜して猶大總統の椅子に踏止らんとし自己の信任を北軍に屬する各省總督に諮問せるに對し馮國璋を除き他は全部袁總統の踏止りに贊意を表せりとの說あり（東京電報）

袁總統の私財

支那政局の中心たる袁總統所有私財は一億圓位なるべしと噂さる（東京電報）

露支鐵道借款調印

今回露支間に鐵道借款契約調印せられたるが其の内容左の如し（北京特電）

一、金額　五千萬留
二、線路　本線は哈爾賓、ヴラゴエチンスク間、支線は本線と黑河とを連絡す
三、公債の發行　歐洲戰爭終了後適當の時機に於て之れをなすが故に起工の期は未定なり
四、擔保　鐵道全線其他財産及收入
五、技師長及會計主任　運轉主任露國人たるべし
六、利率其他　四鄭鐵道東淸鐵道と大同小異なり

佛軍攻勢を取る

ヴエルダン地方＝佛軍の一地角占領＝獨軍逆襲して大損害

巴里來電公報中特に目立てるはヴエルダン地方に於る佛軍が攻勢を取りつゝあることにして獨軍はミユーズの西方に於て歩兵戰を企てペスンコートマル村落をも砲擊せり佛軍は砲擊準備を整へアヴオコート森林を攻擊し其の東南方に於て三百米突餘に達する地方及び敵が堅固に築壘せる重要なる一角を占領せり獨軍が新銳の兵一箇旅團を以て行なひたる逆襲は完全に擊退せられ獨軍は多大なる損害を被り佛軍は多數の捕虜を獲たり（倫敦電報）

獨逸沿岸活動船歸還

英獨艦隊の逢遭＝敵艦の沈沒

英國海軍省の發表する所に依れば獨逸沿岸に於ける活動の爲召集せられたる船舶はメデユサ號を除き全部歸還せりメデユサ號は沒沈せしも乘組員は救助せられたり廿五日夜英國輕巡洋艦隊は獨逸驅逐隊の一支隊と逢遭し敵艦一隻は我クレオパトラ號の爲擊沈せられ乘員全部死亡せり（倫敦電報）

露國陸相の更迭

露都來電に依れば陸軍大臣ポリヴアフ氏辭職し兵站部長コウエノフ少將陸軍大臣に任命せられたり（倫敦電報）

印度小麥禁出

英國政府は四月より向ふ三箇月間印度に於ける小麥の輸出を禁止せり（東京電報）

讓渡三艦授受

露國に讓渡せる我三艦は四月二日舞鶴港の上引渡さる可く代價は露國大藏證券にて支拂ふ可く協定成れり（東京電報）

壹岐拂下決定

海軍省にては伊勢灣に沈沒せる壹岐艦を拂下ぐる事に決したり（東京電報）

陸軍次官局長更迭

三十一日陸軍次官及び軍務局長左の如く任命せられたり（東京特電）

陸軍少將正五位勳三等功三級　山田隆一
免本職　任陸軍次官（一等）

青島守備隊參謀長陸軍少將正五位勳二等功三級　奈良武次
免本職　補陸軍省軍務局長

陸軍大更迭發表期

新設第十九師團長任命と共に行はるる師團長以下の陸軍大更迭並に進級は愈々一日を以て發表されん（東京電報）

樞顧候補者

樞密顧問官故子爵中牟田倉之助氏の缺として貴族院議員有地品之允氏其候補に擬せられつゝあり（東京電報）

瑞西公使任命

外務省に於ては一日瑞西駐在公使の任命を爲す筈にして多分無任所公使安達峰一郎博士任命せらるべしとの說あり（東京電報）

伊集院大使

新駐日露國大使（奉天發）

伊太利に赴任の途にある伊集院大使及び前任地北京より歸朝の途にある新任露國日本大使クルペンスキー氏は滿鐵貴賓列車に搭乘三十一日午前七時十分の急行にて長春に到著更に露國貴賓車に乘じて八時四十七分北行せり哈爾賓よりは歐洲戰況視察の途にある秋山少將も同乘する筈なり各驛送迎者は日露兩國の官民數多にして盛なりし（長春特電）

新全北道長官

新任全羅北道長官李軫鎬氏は卅一日午後一時官民多數の出迎を受け著任せり（全州特電）

段將軍の苦悶

帝政取消につき隱退準備

奉天の上將軍兼巡按使段芝貴は袁總統股肱の士にして帝政主唱者の一人に屬し現に南支革命派より三十餘名の帝政主唱者の中に數へられ其の誅戮を叫ばれ居る始末とて帝政取消後の今日殊に親分たる袁總統の失勢より其の落膽、苦悶、倶惴餘所の見る眼も氣の毒なる程にて昨今は一室の内に閉ぢ籠り一切他との面會を謝絕し北京政府に對し病氣と稱し一週間の請暇をなし此間早くも隱退の準備をなし居るとの事なるが奉天方面にも近來革黨員盛んに入込み反帝政を鼓吹し猶ほ獨立軍側より二三の密旨を派遣し來り現に張二十七師長の如きその密使より東三省獨立起兵の慫慂を受けたる位なれば段家巡按使の身邊は從つて頗る危險なるものあるが爲め病氣と稱し一室に閉籠り居ると共に湖北より携同し來れる親衛兵をして同夜身邊の警衛に當らしめ戰々兢々只管保身の術に苦慮しつゝありと云ふ段將軍は最近北京に帝政取消の反對を電致したりと傳ふる者あるも此の樣子にては左樣な勇氣あるべしとも思はれず討伐軍司令官の任命を固辭したるに見ても彼の心事知るべきものあり因みに張二十七師長の態度が此際如何に變ずるかは世人の一般に注目し居る所なれど今の處格別の變りなく獨立起兵の勸誘を受けしも表面一通り之を拒絕し平常の如く勤務し居るが如し（大連）

鮮內金融概況

貿易は入超金融は緩漫

內地の米界は需要の減退に反し供給力頗る豐富にして集散市場に於ける前月來の在米は尚ほ不消化の狀況にありたるを以て朝鮮米に對する大口注文は自然杜絕し且つ棉花、牛皮の取引も亦不振なりし爲め二月の輸移出貿易は三百二十三萬圓にして前月に比し百二十八萬圓、前年同月に比し二十四萬圓の減退となりたり、而して輸移入品の大部は其價格昂騰を重ね且つ米價安と舊正月の關係にて商取引頗る閑散なりしも先高見越のものに對しては思惑仕入を惹起したるを以て輸移入貿易は四百七十一萬圓にして前月に比し四十六萬圓の減少に止まり、前年同月に比すれば却つて百三十七萬圓の增加を示したり金融界は米穀取引の不振により新規資金の貸出なく從つて放資は回收勝なりしを以て二月の民間貸出は百四十一萬圓にして前月に比し二十一萬圓前年同月に四百十三萬圓を增加し一般の金融は前月來更に緩漫の度を加へ來り金利は漸次低落の傾向を呈するに至れり

煙草輸移出額

二月中に於ける鮮內製造煙草の輸移出額は口付五百三十四萬九千本、一萬三千三百八十四圓、兩切一千三百四十三萬二千本、二萬六百七十七圓刻煙十八貫、百三十五圓、價額合計三萬四千百九十六圓にして一月以降の累計四萬八千三百八圓を算せり、之れを輸移出先地別に示せば如左

輸移出先地別價額

	二月分	累計
安東	一一、五九九圓	一三、四四〇圓
開原	二、〇〇〇圓	五〇五圓
四平街	六〇〇圓	一六八圓
本溪湖	三五〇圓	五〇〇圓
鐵嶺	……	一八七圓
撫順	四六五圓	六五二圓
奉天	……	一五〇圓
大連	一四、三三六圓	一九、四六一圓
青島	五、一〇〇圓	九、六〇七圓
上海	……	三八圓
間島	二、五〇〇圓	……
琿春	……	一、一〇〇圓

尚ほ二月並に一月以降の累計價額を輸移出者別に示せば左の如し

輸移出者別價額

	二月	累計
東亞會社	一八、七五〇圓	二〇、二五〇圓
廣江商會	一〇、八八八圓	二〇、七九二圓
朝鮮煙草	一、一四三圓	一、一四三圓
釜山製品	三、四一五圓	六、一二三圓

古物發見と報勞

大正三年來朝鮮各道に於て考古資料となる可き埋藏物を發見届出たる者は遺失法第十三條に依り其所有者判明せざる爲め所有權國庫に歸屬すると共に發見者及び土地所有者に對しては規定の報勞金を給與する事となり居れるが同規則施行以來今日まで其の報勞金を受けたる者は忠南、慶北、全南北、江原の六道に於て十一名を數へ其給與額は最低五十錢より最高四百三十五圓に亙り合計六百八十五圓七十一錢を算せり、而して其の發見物は新羅時代の陶器、高麗より李朝に亙る鈞鏡、鐵釜其他種々ありといふ、尚ほ今後に於ても埋藏物を發見したる者に對しては夫々規定の報勞金を給與す可きを以て遲滯なく屆出づ可しと

營業取締規則

宿屋、料理店其他に關する

宿屋營業取締規則全文二十四條附則三條より成る宿屋營業取締規則及び料理屋飲食店營業取締規則全文二十二條附則三條より成る藝妓酌婦藝妓置屋營業取締規則全文三十九條附則七條より成る貸座敷娼妓取締規則は三月三十一日總督部令を以て公布せられ、何れも五月一日より實施の事となりたり、而して俳優、力士、活動寫眞辯士、講談師等所謂遊藝稼人に關する取締規則も亦目下成案となり參事官室に於て審議中なれば近く總督の決裁を經て發布の運を見る可し

官制改正發布期

醫學講習所、工業傳習所、專修學校等の昇格に伴ふ官制改正は四月一日を以て發布さる可く同日より施行の事となる可し而して專修學校は既に生徒の募集を了りたるを以て四月一日より開校の運びを見る可く、工業專門學校及び醫學專門學校は目下募集中なれば開校期は十日の頃となる可し

濟州島土地査了

濟州島に於ける土地調査は既に終了目下諸帳簿の整理作製中なるが來る五月下旬迄に土地臺帳及び地籍簿を調査局より濟州島廳に引繼ぐ由

定例長官會議

三十一日は定例長官會議當日なるより寺內總督以下各部長官、所屬官署長官局長等は午前十時より總督府第二會議室に參集、通常政務に就き協議打合の上正午散會したり

京城府豫算認可

京城府の大正五年度豫算は曩に道廳に提出して認可の申請中なりしが四月一日認可ある筈にて直ちに新豫算を實施すべしと

昌德宮午餐會

李王殿下は御誕辰の意味を以て三十一日午後零時三十分より京龍內勅任官以上の文武官、朝鮮貴族等を昌德宮內仁政殿に招待午餐會を開かれたるが寺內總督、井口軍司令官以下重なる文武官、朝鮮貴族、中樞院顧問、贊議等百數十名參列したり

師團長巡閲

新任第九師團長橋本中將は守備隊巡閲の爲め三十日夜龍山發列車にて新義州へ向へり

長官課長出發

日露連絡會議列席委員として東京にて開會の日露連絡會議及び三線連帶減貨協議會に列席の鐵道局側委員たる大屋長官は小林書記を隨へ二日午前八時三十分南大門發、三木營業課長は岩崎參事補同道一日午前八時四十二分龍山驛發何れも東上の途に就く筈なり

松永道長官著任

新任京畿道長官松永武吉氏は三十一日午前八時南大門著の列車にて出迎ひの爲め北行せる時永事務官を隨へて著任せり官民有力者外人宣教師學校生徒等出迎者多數なりき

小松原氏來鮮期

東洋協會頭小松原英太郎氏は臺灣共進會開會式に出席後歸途滿洲視察の爲め來る四月十五日頃來鮮の筈なりと

村井大尉送別會

京城憲兵分隊長大尉村井因憲氏は這回退職歸國することゝなりたるより二日夜京城白水にて同氏の送別會あるべし

板東代議士歡迎宴

既報の如く板東代議士の歡迎會は生田水產課長、鹿原、久次米の兩技師發起となり三十一日午後六時半より朝鮮ホテルに於て晩餐會を催す

協同傳道は延期

日本に於ける基督教各派を以て組織せる協同傳道團は四月京城に來り大擧傳道を行ふ豫定なりしが都合により來る九月迄延期す可き旨此程美以教會スミス長老の手許迄通知し來りたりと而して九月に來鮮する講演者の主なる人は江原素六、笹尾博士、森村市左衛門、宮川經輝氏等なりと

平壤

▲公會堂起工　大典記念公會堂建設に對する寄附金募集の認可申請に對し警務部は二十九日其の許可の指令を與へたるが一兩日中府廳に評議員會を開き各部署を協定し募集に着手し一方工事を起すべし▲舊市街排水工事　平壤府第一期繼續土木事業たる舊市街の排水工事は既に設計の大體を了し府豫算の認可を得成立せば直ちに入札に附すべし尚ほ工費豫算は六萬六千圓なり▲新道長官送別會　松永新任京畿道長官は三十一日上京會議に列席の上十二三日頃歸壤に付官民相謀り盛大の送別會を開く

元山

▲最近の漁況　元山近海に於ける最近の漁況に就きて聞くに明太魚漁期を過ぎたる以來不漁時に經過しつゝありしが去る廿四日より廿六日三日に亙り鰊二十數萬尾の漁獲高を示し當業者は漸く愁眉を開く間もなく翌日より忽ち漁獲斷絕するに至れり約一箇月前より長箭及び新浦方面に出漁中の漁業者は夫れに從つて當近海に鰊は全く漁獲を見ざる等兎角最近の漁業界は不振の狀態に在りと而して現今鰊は一尾四錢六厘を唱へ居れり▲府協議會　去る二十九日午後一時より元山府廳にて府協議會開催大正五年度府稅營業稅其他雜種稅の等級を協議する所ありたり▲春季淸潔法　元山府內各町各洞春季淸潔法は來る十日より十四日（雨天順延）迄に施行の筈なるが尚ほ之れと共に同月十二日より十六日の五日間に於て各大下水の浚渫をなす豫定なり▲軍隊宿泊　近く元山を通過すべき新設師團軍隊の宿泊及び待遇準備に就きては既に府內各方面に亙り熟議中なりしが今回各町內組長總代より提出したる各戸收容力表に依り府廳及陸軍運輸等に就て協議更に四月一日午後一時より各町內組合長、府協議員在鄕軍人評議員奬會長等集合諸準備事項に關し協議會を催す可しと

淸州

▲鈴木長官赴任　新任鈴木忠北道長官は三十一日午前十時淸州發芙江を經て赴任の途に就く官民の見送り盛なりき▲新任長官歷訪　既報の如く三十日著任したる柳忠北道長官は同日午後道廳職員一同を引見したる後佐々木第二部長の案內にて在淸各官廳を歷訪し新任の挨拶をなしたり▲記念品贈呈　鈴木長官及び兪參與官の在任中の交誼を記念せんため忠北第一部長外數名の發起にて記念品贈呈の議成り一般の贊同を希望しつゝあり▲意味ある園遊會　既報廿九日午後四時より淸州東公園にて開催せられたる大園遊會席上鈴木長官はさも感慨に堪へざる體にて「著任以來滿六年間の過去を追懷して現在に及び忠北行政の基礎漸く成らんとする時遺憾の命に依りて此地を去るは重し身は愈々老びて殆んど爲すなきも上命背く能はず老體以て國に盡さん爲め多年親しみし忠北の山河と別れ多年忠に克く小官を扶けて大過なからしめられたる厚誼ある諸氏と訣別せんとす」と述べ靑々沈痛の狀ありを普通野遊の宴が端なく元道長官訣別の意味を加へたる宴となりしは偶然とは云へ甚だ意味ある園遊會なりし也當日天候惡しく風さへ烈しく吹荒みたれども諸種の餘興もありて非常の盛會にて七時過散會したり▲淸州の晝火事　三十日午後六時過淸水町百番地大工［illegible］某方炊事場より出火し半燒二戸を生じ同七時鎭火したり當時のことゝて損害は大ならざりしも水の手惡しく折しも恰も開市のをりとて一時は非常の雜沓を極めたり

水原より

中島生

○社用を帶びて水原に來り候。驛前にて端なく農林學校の永岡君に會ふ。永岡君は小生の顏を見るなり『貴樣の重石ですか』と笑ひながら問ふ。問はれた小生も聊か面喰はざるを得ず。何故にかゝる問を發せらるゝぞと反問すれば永岡君は『どうも大變な景氣で、水原で乘降する人はみんな重石黨だ』と云ふ譯で。

○旅亭に到り、試みに婢に問ふに、タングステンの事を以てす。婢皆まで聞かず、待つてましたとばかりに、短刀直入タングス客の有難さを說く所、聊か敵本主義に似たり。水原驛頭の宿屋の如き、重石熱の爲めに、千客萬來の繁昌なりと云ふ。從て女將も娘も女中に至る迄欣々然たらざるは無し。婢の曰く『私は此頃此家に來ましたが、一日早ければ一月分は浮いた筈ですのに、今でも殘念で堪りませぬ』と。蓋し彼の此宿に來りし前日大盡樣が見えて札ビラを切つたるに潤ひ得ざりしを悔ゆるなり。

○今や朝鮮は單に重石と謂はず一般に鑛業熱勃興して、苟くも事業を語るに鑛業を以てせざれば、アップ、ツー、デートたる能はずと云ふ位なり。偶々水原に來りて、小生の如き一番生も重石黨かと戲言を言はれる程に、鑛山熱は大したものに候。但だ小生鑛山には風馬牛なり。從つて何等田舍の宿をすら喜ばす能はず。御氣の毒樣と申すべき也。（三月卅日）

忠州

▲上杉技師視察　水原模範場上杉技師は黃色煙草狀況視察の爲め二十八日來忠鶴屋旅館に投宿せり▲守備將校送迎宴　忠州守備隊歸還及び交代將校送迎の爲め二十八日午後七時末廣に於て催す參會者官民七十餘名にして緒方聯隊長も臨席せり湊判事忠州官民を代表して送迎の辭を述べ歸還中隊長岡本大尉交代中隊長山形大尉の挨拶ありて極めて盛會なりき因に緒方聯隊長は二十九日歸隊せり▲歸還兵出發　忠州平昌守備の任を終へ原隊福岡十四聯隊に歸還すべき平昌中隊は二十九日來著翌三十日午前七時三十分忠州守備隊は同八時三十分出發陸路鳥致院に向へり

大邱

▲兵營敷地獻納願書提出　大邱兵營敷地獻納願書は既成會總代伊藤吉三郎氏名義にて卅日附陸軍大臣に提出せり▲組合議員補缺選擧　大邱學校組合議員補缺選擧は愈々數日間に切迫せるも未だ公然候補の名乘を揚げしものなく彼我形勢觀望中にて選擧期日に至るも或は無競爭にて結了すべしと觀測さる▲李全北長官告別　前慶北道長官李軫鎬氏は三十日午後道廳樓上に於て廳員を集め告別式を擧げ三十一日新任地全州に赴き事務引繼をなし次で長官會議に列席すべき豫定なりと▲倭館停車場工事　京釜線倭館驛は線路の北方にある爲め倭館市街との連絡不便なりし爲め今回愈々南側に移轉する事となり去月來土工に著手しつゝあるが目下半ば以上進捗せり

釜山

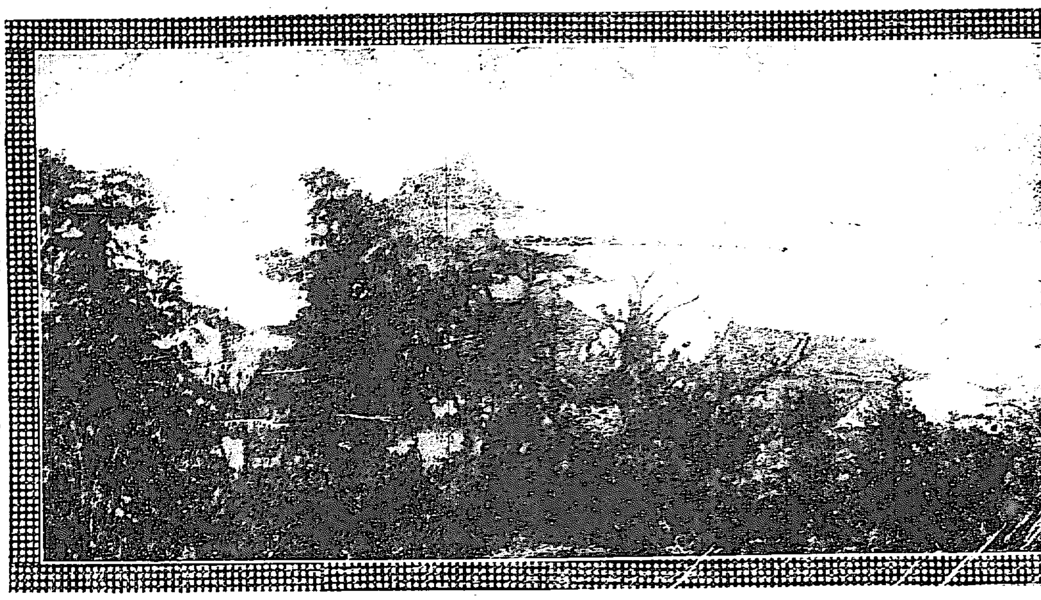
▲府豫算決定　大正五年度釜山府一般會計及び特別會計は其筋に對し認可申請中なりし處廿七日附を以て一部修正の上認可の指令を受けたり▲水道債一部償還　釜山水道債六十七萬七千圓は之を大正十年度迄に全部償還する豫定なるが本年度一萬二千圓は三十一日に償還を了せりと

長春より

▲孟氏救濟運動　元吉林孟巡按使は某犯罪に依り革職せられ其後北京に於て謹愼中なるが吉林の紳士修慶山は孟氏の目下の境遇に同情を表し今回商界代表者馬芳幹及び學界代表者金月岑其他の紳士數十名を自宅に招き協議を開きたる結果孟將軍王巡按使に對し稟上書を提出したり▲貧民南方送付　露國官憲は北滿地方に散在せる無職浮浪の支那貧民百六十七名を狩り集め哈爾賓より長春に送り來りしを以て更に之を二十八日の列車にて奉天に送れり

人事消息

▲松永武吉氏（新任京畿道長官）　三十一日入京朝鮮ホテルに投宿
▲宮木又七氏（新任全羅南道長官）　三十一日朝赴任の途に就く
▲疋田忠義氏（工務課技師）　營繕工事調査の爲め三十一日忠州に向ふ
▲鈴木坂藏氏（同上）　三十日鐵村に出張
▲エーエムホーム氏（北京駐在米國大使館附武官）　三十日午後內地より釜山上陸北行
▲時永浦三氏（京畿道事務官）　嚴父危篤の報に接し三十一日夜急遽歸鄕
▲高根義人氏（法學博士）　三十日入京三十一日安東縣へ
▲松寺竹雄氏（京城地方法院檢事正）　三十日夜群山より歸任
▲關李王職長官　三十日夜沙里院より歸任


皇后陛下の御駐泊ありし名古屋城

●十五萬圓事件判決
二十年以下の懲役に處せらる

韓國銀行十圓紙幣十五萬圓僞造行使被告事件は三十一日午前十時半より釜山地方法院に於て判決言渡あり岡裁判長階席堀部、栗山、照島の各判事出廷し被告淺沼鶴太郎は二十年松浦政助は八年秋元清助木村定次郎は各七年田村久作申敬億は各五年申泰文は三年の各懲役に處せらる(釜山特電)

●海岸に海豹の山
滿潮に乘じて陸地に泳ぎ寄る

平南龍岡郡廣梁灣を距る二里餘の海岸に去る二十七日附近の村民が貝を拾ひに行きたるに珍らしくも海豹の大群が干潟の上に集合し居るより大に驚き大勢寄り集て一頭も殘らず叩き殺したるが總數四十一頭ありたる由村民は二十九日南浦水産會社に持ち來りて買取方を交渉し居れるが是等の海豹は滿潮に連れて泳ぎ來り陸岸に上りて晝寢を爲し居る內引潮に際し逃場を失ひしものならんと傳へられ居れり昨今水産會社前は見物人の山を爲し居たり(平壤)

●青年士官の偶刺
兩名とも即死=原因判明せず

大阪第四師團輜重兵第四大隊付少尉廣島縣生れ竹谷壽雄(二五)は三十日夜北濱先きなる東區松屋町岡田半四郎方二階にて同隊付中尉淡路生れ岡田慶三(二七)と倶に死せり竹谷は丹前の上より心臟を岡田は軍服の上著を脫ぎ同く心臟を貫き共に絶命せり急報に接し長谷部大隊長以下の將校軍醫等馳け付けしも既に兩人共死亡し居たり兩人は平素溫厚質朴にして親交ありしが今回斯る椿事を出來せしは男同志の情死なるべしと取沙汰する者あれども現場の模樣によりて察すれば竹谷は不意に刺されたる樣子なるより此間何等かの秘密伏在せるものゝ如く大隊及び憲兵隊にては偶刺の原因に就き目下調査中なりと(大阪特電)

●夕陽に映ゆる皇后旗
皇后宮名古屋御駐泊
楊柳けぶる御幸道路

皇后陛下には廿九日午前八時五十分東京驛を御發輿あらせられ途中御恙あらせられず同午後五時五十五分御機嫌殿しく名古屋驛に著御あらせられたり是より先松井知事、丸茂警察部長は濱松迄奉迎し沿道の御警衛を申上げたり名古屋驛には大庭第三師團長、神頭參謀長、西村內務部長、阪本市長を始め文武高等官、貴衆兩院議員、赤十字、愛國婦人會員等有資格者所定の位置に奉迎し御召車が進行を停むるや古川鐵道院副總裁が車の御扉を開きまゐらせ御先導申上ぐれば 陛下には靜に玉歩を歩廊に移させられ奉迎の諸員に輕く御會釋を賜ひつゝ貴賓室に入らせられ御少憩の後中央御車寄より御料の馬車に召され名古屋離宮に向はせらる春の夕陽、近衛騎兵の捧ぐる皇后旗に照り映え、金光燦として眩きばかり、花の蕾は未だ堅けれど柳は滴る許の緑に芽ぐみて絵のやうなる御幸道路を駒の足搔も緩やかに徐々と進ませ給ふ鹵簿の美はしさ、斯くて軍隊、學生、市民等堵の如く群がりて奉迎しまゐらする中を御園門より離宮に御安著、御居間に充てさせ給へる奥の御殿に入御あらせられたり當夜は愛知縣より第一第五各中學、工業學校師範學校及び市立小學校中の十四校を擇び其の成績品を離宮內に陳列して御覽に供し奉り又御座所には度々御用命を忝なうせる入代流生花の家元岡島宗匠眞心を罩めたる生花を上つり御徒然を慰めまゐらせたるが三十日は午前十時四十分離宮御出門同十一時名古屋驛御發輿關西線にて宇治山田市に向はせられたり(名古屋)

●穴の明いた新白銅貨
四月一日より通用

從來流用し來りたる五錢白銅貨は造作なく僞造され易く又一錢、五厘銅貨は多年使用中缺點多きにより改鑄し新貨幣は四月一日より通用することゝなれるが新白銅貨は直徑六分八厘中央穴の口徑一分四厘重量一匁一分四厘一錢銅貨は徑七分六厘重量一匁五厘銅貨は徑六分二厘重量五分六厘なり而して今回鑄造せられたるは白銅貨五十萬圓銅貨三十萬圓にして鑄造手遲の爲め通用は從つて遲延せり(東京電話)

●農民大擧
鳳凰城を襲はんとす

去る二十八日午後二時頃より鳳凰城を去る十四支那里の鷄冠山文家大嶺に近き二臺子附近に二百餘名の農民集合し一時に鬨の聲を作り鳳凰城へ押し寄せんとする有樣に斯と知りたる鷄冠山駐在巡官は急を鳳凰城警察本所に告げ一方頻りに鎭撫に盡したれど中には鳳凰城襲擊の企てを二龍山にて喰ひ止められて退きし尖山窰組もあるらしく官憲にては二十八日正午第一保衛團に集合鳩首協議の末廿五名を以て防禦なさしむべく步行にて同地へ急派せしめたり(鳳凰城)

●三人組强盗逮捕

全北益山郡龍安面龍城里五統四戸土方金七洪(二七)同洞里居住金[illegible]……たるを手始めに同年七月三十一日夜同郡龍安面龍城里吳用柱方に押し入り現金三圓を又た同年十一月廿一日……に押し入り金に斬付け糯米三斗玄米一斗四升唐木二尺其他數點を又一月十三日同郡朗山面上石里陳承鉉……筋の手に捕へられ取調べの上强盗傷人罪として全州法院支廳の公判に附せらる

……き一鮮女あるを發見し直ちに之を救ひ上げ事情を取調べたるに同女は三德面下林里農金仁恒の妻崔氏(三二)に……生活困難の結果遂に自殺を企てたるものなりと

●連絡船上陸客

三十日午後……

□おどけたる辯士の振や春の宵
活動寫眞は春の事―黄金館を覗いて見るの記
―喚く歡ぶお客のいろ／＼―こッそり見物の藝者

―春と活動寫眞―花も咲かず娛樂場とてもない京城では、春三月瓦斯の灯の淡く搖れる街々に、生暖かい風が吹く頃になると、多の間今にも眠りに落ちようとする人の樣に、微かな喘ぎをつゞけてゐた活動寫眞が勇ましくも息を吹き返してくる、春は活動寫眞にとつて何よりうれしい音づれである

―三十日の晩、連夜大入客止といふ黄金館へ―呼物の寫眞は一月頃大阪近在の富豪の娘が嫁入先の姑小姑の虐待に居堪らず、瀨戸內海を航行中の汽船の上から幼兒を抱いて投身した事實を天活が脚色して五味木下一派に實演せしめたもの、須磨の仇波―聞くからに若い女の涙を誘ふ一齣である、外に興味を惹くもの、觀兵式、觀艦式―勇ましいもの、柳生實記―

―成程、寫眞がいゝのか、事實物語りといふのが人氣を呼んだか、七時四十分といふに場內は一杯、喫煙も無いのに蒸返す樣な暑さ、座る場所がなくて廊下口に中腰になる女あれば『丸髷ッ曾を下げろ』『束髮、もッと縮まれえ―』赤切符の三等客は遠慮がない、凄まじい騷ぎ、『引込め』『見えぬ』と湧き返る騷ぎ、お茶子が狼狽へて、迂路々々すれば又しても『お多福出るなッ』それでも柳生十兵衛が山賊の四五十人も一時に斬り捲くれば『イヨー强いぞッ―』と大喝采、活動のお客は邪氣がない

―此景氣に活辯先生調子づいて電話の取次を臺詞でいふ『オイ兄弟××町の△△さんに電話だつてよ』『居なすつたら出て貰うちやねへか』畫面は柳生十兵衛が駕籠に乘らうとする所、―滑稽けたる辯士の振や春の宵―お客はニコ／＼笑つてゐる、氣樂なものだ、黄金館には行つてはならぬと固い約束をした筈の者が四五人、チラホラと小さくなつてお微行の體名前は預かるが、三太組さん嗅番をしなければならぬ所だ(太郎法師)

●新作四曲彈奏
旭崇會白國義捐筑前琵琶會

筑前琵琶師匠井上千代子の旭崇會にては來る四月三日神武天皇祭當日午後六時より南山町京城ホテルに白耳義捐筑前琵琶會を開催しその總收入金を白耳義被難民に義捐する計畫なるが當日は左記演奏番組の外に田原水氏新作の同情の涙、可憐の少女、生別、義戰の四曲を彈奏すべく以上四曲は何れも白耳義に關するものにして王族の蒙塵を歌ひ袂別離苦の情を哀しみたるもの白國某子爵の少女が牢獄に繫がるゝあり、サエジュ要塞戰を唄ひたるものあり出演者は井上門下中出盛の粹なる者を網羅したれば聽堪へあるべく入場券は白券一圓青券三十錢にて當夜は白耳義總領事も參聽する由

△宇治川(?)上[illegible]△[illegible]△石童丸[illegible]△[illegible]△小督[illegible]△[illegible]△[illegible](一旭嶺)

●盛なる出迎へ
松永新長官著任

三十一日朝の南大門停車場の驛庭は劍光帽影に埋つたそれは新に京畿道の合弄となつた松永前平南道長官の出迎への官民有力者であつた驛前の南大門通りには女學校小學校の生徒が堵列して居た定刻午前八時著の列車から肥滿の體軀を勅任官の制服に包める長官は時永事務官を隨へて悠然と下車出迎ひの人々に叮嚀の會釋をなしつゝ有賀深尾兩部長並に金谷京城府尹等と相前後し貴賓室を出で、大通りに列を作せる各學校生徒の前を過ぎ自働車を京畿道廳に驅つて府廳に赴いた

●村雲尼の巡錫

村雲尼公京都より今朝門司通過熊本に向へり六週間の豫定にて九州各地を巡錫すべしと(門司特電)

●紫洋畫會展覽會

黃金町三丁目紫洋畫研究會にては來る四月二三兩日京城ホテルに於て第一回作品展覽會を開催し一般の看覽批評を歡迎すと

●觀世流素謠會

觀世流春風會、調絃會、松綠會、樂野會にては來る四月三日午前十一時より壽町有明樓に素謠會を開催すべくその番組左の如し

△[illegible](三浦、[illegible])△[illegible]△[illegible]△[illegible]

軍艦生活(六)
偉大な信仰の力
肌身離さぬ守札

軍艦內に於ける日常生活はこれで大體に濟んだからこれから軍艦で信仰する神樣の御話をする陸上に居る時は神も佛も假象物だのと人の信心を嘲笑した連中でも一度船に乘つて海洋の渺々たる大洋の中に泛ぶと吾々の運命なるものは常に何者か

▽偉大な目に見ぬ

▼者の手に握られて居ると云ふ事が適切に感じられる猶豫なく海上で起る出來事などに就て見ても到底人力の及ばない不可思議な事を痛切に實驗し又常に目擊するので自然人間同士以外に生きた偉大なる力を持つて居るもの即ち神の存在を承認する事になるそれだからどんなくれ者でも船に這入つて來ると氣狂で無い限りは

▽必ず信仰を持つ

▼樣になる軍艦では此の信仰を統一する爲めにどの艦でも必ず神樣を祀つて居る例へば富士は淺間神社、出雲は大社、安藝は嚴島神社、鹿島には鹿島神社、香取には香取明神と云ふ風に艦名に因んだ神社か又天照皇大神を祀つて居らぬ處はないさうして茲に祭祀の神は質に

▽艦內信仰の中心

▼であつて人力の及ばぬ事は必ず神の力に縋る事になつて居る、だから兵卒などが射擊試驗の際などには朝から晩まで一心不亂に操練をして疲れた身體を寢床に横へる前に必ず軍艦內の神樣を拜む事になつて居る猶一年に一度宛祭典を執行がされ祭典が濟むと神前に供へてある

△賽錢函を開いて、

▼之れを其の神樣の本社へ贈る事に成つて居るが多い時には百五十圓位も有る本社の方では其賽錢を受取ると受領證と一緒に守札を送つて來るその守札が兵士に分けられ

ると感心な事には其の內の一枚は必ず大砲に貼り付ける身體よりも大砲の方が大切だと云ふ觀念は斯んな時にも發揮せられる序でだから守札の話をするが兵卒は

▽守札さへ持つて

▼居れば必ず怪我はないもの死なないものと極めてどんな危險な任務にでも平氣で從事するそれだから戰爭の時などになると彈に當つて斃れる者は其の屍體から何よりも先きに守札を取つて隱くして終ふこれは神樣と死人を一緒にして置くと云ふのは勿體ないといふ觀念からである(をはり)

新鑛業令施行の四月一日を待ち構へた鑛業者の噂さ昨今京城中の宿といふ宿は押すな／＼の賑ひであるが中には開けてくやしき玉手箱の人々もあらうとの噂さ▲豫て總督府で蒙古の綿羊を飼つて居る京元線の洗浦驛附近は土地が殆んど誂へ向きの廣い野原なるにも拘らず、蠅の居るのが玉に瑕、何うか綿羊の脚に噛みつく事だけ止めて貰ひたいと同所の技師が苦心して居たが今年は何とか豫防ができたとかのはなし▲京城中學校では柴崎校長始め職員一同で編纂した『養氣篇』といふ詩集があつて生徒學業の餘暇に吟詠せしめて居るが中には和歌、漢詩、英詩などの吟唱すべきもの多く生徒は皆ポケットに此の小册子を入れて居る相な▲昨日からの陽氣で往來はそろ／＼コートを捨てた人が多くなつた京城の春は愈々これからであらう

天氣 曇り但少雨 四月一日(一日午後六時迄)

商業登記公告
一、商號 三巴酒店 一、營業所 京城府[illegible] 一、營業ノ種類 酒類販賣 一、資本[illegible] 氏名住所 大平町百拾四番地 石川縣金澤市東馬場七拾參番地 高柳[illegible]
右登記ス 大正五年參月貳拾七日
京城地方法院 開城支廳

朝鮮語 英語科 新學期開始 三ヶ月修業 各級補缺募集
●新學年に際し入學金免除
南大門通漢城銀行向ひ 京城青年會

鴨綠江材値上廣告
總督府營林廠に於て本日より木材單價改正相成候結果從來より約一割値上仕候間此段謹告候也
大正五年四月一日
京仁 材木商同業組合

解雇廣告
岩滿儀助
右の者今般合意の上退店仕候に付自今弊所とは何等の關係無之候也
三月廿八日
京城南大門通り三丁目 高杉出張所

きく苗
他に類例なき珍種を無數に蒐集し之が頒布に當つて充分の責任を以て旣に愛好家の高評を博したる名鑑錄は二錢切手封入申込次第進呈す
大阪市外天王寺驛南一丁目 松浦[illegible]園

●擔保流品賣却
英國製ローヤル號實用堅固 自轉車 前後ブレーキスタンドカバー附
廿二圓五十錢
一切改良耐久力に富むローヤルダイヤ十八金側 十六形アンタル惣石入 金時計
金貳拾八圓也 保險附
昨年來より一般商況不振の折柄當地有名の商館倒産の結果當庫に擔保品として流れ込みたるを格安に賣却す
難波五十八倉庫係 電話南一七六七 振替大阪一六一五番

▲全國專門女學校○各小學御採用 實用新案登錄第三八三五〇號
小町まち針
裁縫に小町まち針は是非無ければならぬ物で、各專門女學校始め小學校又東京の家庭にありても好評で大頭の御使用であり、升に製作上多くの注意をはらひ、獨特の技巧によりアルミニユームを著せしめ裏面は學年又は氏名を記入することを得、實に裁縫界の一大福音であります
價……五本入三錢○十本入五錢送料各○見本三錢○百本入四十五錢送料八錢
發賣元 東京市神田區南神保町 根本商店 振替東京一三三九一
共立女子職業學校 日本女子大學校 學習院女學部 御用

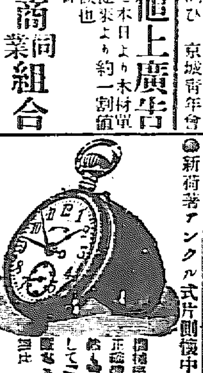
醇良清酒
仁川本町四丁目 吉金酒店 電話七六四番

かゝる時腦病を自覺せよ!
一、逆上頭痛耳鳴眩暈起る人
二、神經痛み仕事に手に著かぬ人
三、頭腦に重き物被る心地の人
四、便秘又夜分眠られざる人
五、頭腦茫漠として健忘の人
六、事務執るも直に疲勞する人
かゝる兆候起る時スグ健腦丸服用を怠る勿れ
價 一週間分七十錢 二週間分一圓四十錢 四週間分二圓五十錢
東京日本橋通四丁目 丹平商會藥房 大阪市平野町 丹平商會分店 東京市本郷 丹平商會支店
▲全國有名藥店に取次す

健腦丸 腦病良藥 KENNOGWAN 島村博士證明

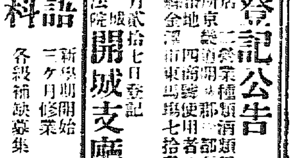
迷ふ勿れ腦病神經病者よ
島村醫學博士有効證明の健腦丸は幾多の患者が實驗して其偉効に驚く唯一の腦病神經衰弱諸症の最適藥である。常用すれば逆上を引下げ便通を快し記憶力を增し中風卒中を未然に防ぎ危險な腦充血を治す。

時計蓄音器、ミシン機械自轉車、洋酒各國貨直輸入商
イングレッシー商會
京城本町二丁目 電話九七二番



新荷著アンクル式片側筒中時計

太田胃散
良藥 胃病
○飲過ぎ食過ぎに妙なり
本舖 東京吳服町 太田信義藥房
▲全國到る處の藥店に販賣す



日出 午前六時二十分 日入 午後六時五十六分

●盛んになつた化學工業
農商務省工業試驗所の擴張

戰爭の爲め工業其他鑛山熱は非常に勃興して來た我國工業鑛山界の參謀本部とも見る可きものは農商務省の工業試驗所である同所は

□今度戰爭の影響を受けて毎年否決して居た擴張案九萬七千圓は金一兩院を通過して其一部を擴張する事となつた其に就き高松所長は曰く『今度の戰爭で日本の工業界や鑛業界では始めて化學工業と云ふ事を知つて深く腦裡に印した樣である併し日本實業家の多くは目前の利益にのみ走つて居る爲に化學工業ごが云つた樣な將來を見越したものが

□完全な發達を遂げるには時の距離があらうと思はれる今度の擴張に就いては既に建築物も出來機械も不充分ながら買入れて居るから其結果は軈て現れて來るであらう近頃は種々の工業が盛んになつた結果種々な分析の依頼が非常に多くなつた例へば獨逸の巨砲の中に交せてあつて日本の正宗の銘刀の中にもあつたと云ふレーヤメーター卽ち水鉛とかタングステンと云つた類の

□分析が盛に增して來た序でに云ふが獨逸で正宗の分析をした處が水鉛があつたので其から思ひ付いて巨砲に使用したなど丶大分評判して居るが彼は牽强附合の說で學術界では既に鋼鐵にフエロアルエとかレーヤメーターを混すれば非常に堅くなると云ふ事は以前から報告されて居つた事である其が會ま何處かで水鉛が正宗にもあつたと云ふので斯樣な說を立てたものであらう今度擴張される中には問題の染色の方も加はつて居る

□染色なども大抵の事は既に日本で出來るのであるから材料さへあれば決して外國に後れぬものが出來ねばならぬ今度起る染料會社も必ず好成績を得るであらうが唯其副產物を如何に利用す可きか原料は如何するかと云ふ大障害が橫はつて居る技術の點は決して心配する事は無い當所に於て硏究した染料で外國品と拮抗し得るゝ物が盛に出來て世に出て居る此先も工業試驗所は凡百方面に大擴張を行ふ事が急務である』（東京）

●思ひ出話に花が咲く
金玉均氏追悼會

去る明治二十七年上海旅館に刺客洪鍾宇のため橫死を遂げたる朝鮮の志士金玉均氏の廿三回忌に當り氏が日本亡命中に關係ありし各方面の有志の發起にて廿八日午後二時から芝青松寺にて盛大なる追悼會は催された庫裡の方には故人の遺墨、手翰、遺愛品など數十點いづれも當時を追懷するに足るものが陳列され

▽横死後京城に暴されたる凄慘の寫眞もある、此の中で定刻前から參集した頭山翁、犬養毅、田中寺尾博士、內田良平、岡崎邦輔氏等其の他發起人等が樣々の想ひ出話に花を咲かせる中には故岡本柳之助氏の未亡人を始め二三の婦人連さへ雜つてゐた、犬養老が遺愛の硯を眺め入つて『金君は隨分達者に筆を揮つたが硯は餘り選まなかつた樣だ』と言へば頭山翁『うんうん』酔ふと能く痛快に謠よつたナ』と言つた調子で盡くる所がない浪人連の間にも其から其へと懷舊談が盛んになり青年の昔に復つて朝鮮事件などを話題に大氣焰の揚るも上る遺子の金英鎭氏は現に忠淸南道

▽保寧郡の郡守をして居るが遙々上京して此の席に列しフロツク姿に端然として巧な日本語で故人等に挨拶をする式場には正面に『古筠居士金玉均靈位』と記した位牌を安置し兒玉伯其他から贈られた供物が堆く積まれ燭燈は故人の偉業を輝かすが如く閃いてゐる

▽參列者は堂に溢れ五百餘名に達し頗る盛んであつた、先づ青松寺住職佐藤鐵額師衆僧を率ゐて參堂し廿諸門を誦し次で日置默仙老師偈を誦し賓鏡三昧の行道は荘嚴に行はれ午後三時半式を終り遺子英鎭氏遺族席から立つて燒香し次で頭山犬養以下故舊等心を罩めて燒香をなし終つて默仙師の法話あり夕刻散會したり（東京）

●箴誡を書いた扇
柴崎校長より餞別 教員養成所卒業生

朝鮮に於て小學校の先生を養成する唯一の學校たる京城中學校附屬臨時小學校教員養成所の卒業式は卅一日の午前十時より擧行せらる式場は中學校の雨天體操場來賓には

▲寺內總督代理森海軍少將を始め關屋學務局長、桑原成北道長官、秋山視學官並びに府內各小學校職員の著席あり、猶ほ生徒側には養成所第五回の卒業生三十三名と附屬小學校生徒と中學生全部と著席しそれに生徒の父兄も夥多列席せり、式は例により一同の君が代に始まり次いで柴崎校長の勅語奉讀を了つて卒業證書並びに本年皆勤者

▲賞狀の授與式を行ひたりまた校長は嚢に中學卒業生に餞別せると同じく箴誡を書せる扇子を頒ちて卒業生一同に訓誡する處あり次いで成北道長官桑原八司氏も起ちて一場の訓話を試み後ち父兄總代の謝辭並びに卒業生徒の答辭朗讀を以て式を了りたるが又學校よりは『教員養成所卒業者心得』なる一小冊子を贈りこれ等の若き教育者がそれ〴〵全道各地の公立小學校に

▲奉職する際の心得を親切叮嚀に敎へたり、猶ほ養成所本年の卒業生は成績一番の西久保伊六氏が府內日出小學校に就職し二番鈴木駿太郞氏が龍山公立小學校に就職した外全鮮各地の公立小學校に赴任するに決したり、また昨年より同校內に新設せられたる附屬常小學校は本年

▲第一回卒業生六名を出したるが外に一年生より五年生まで十七名の生徒ありて何れも成績良好なり本年の卒業生は男生矢澤秀夫、荒川彰爾君が無試驗にて京城中學に入學し女生徒神野鶴子、島田博子の二名は高等女學校に無試驗入學を許されたるがこれ等は何れも平均九點を得たる優等生なり

書畫用 純絹 京染呉服商 たまや出張店 京城永樂町二 電話一一九六番

●温突の焚火から 三十一日午前十時半頃京城紅把洞八十四番地鄭明運方より出火常備消防出動せしも屋根半間燒失して十時五十五分鎭火原因は温突の焚口より失火したる也と

▲二葉會長唄會 ○○○○ 長唄師匠杵屋六武の名披露目を兼ね四月一日午後五時より明治町浪花館に開催すべく番組は末廣狩、吾妻八景、勸進帳、京鹿子娘道成寺、浦島、たぬき、秋の色種、元祿花見踊、鞍馬山等にて賑かなる由

▲大正館 四月一日より新寫眞と差替えたるが其の主なるものは左の如し ▲實寫歐米近時〔一九〕號 ▲喜劇ブランスの女嫁ひ ▲日本新劇見合ひの替玉全五場 ▲實寫 ▲實寫の幻影 ▲舊劇心中天の網島時雨の炬燵紙治內の段竹本出語り ▲舊劇天橋全三卷 ▲活劇忍術の名人霧隱才藏全三卷

▲黃金館 目下映寫中の須磨の仇浪、柳生實記は好評にて連夜滿員を續け居るため向ふ三日間日延べ

▲蜆のぬた 蜆を適宜に鍋に入れ僅少の水を入れて煮立てれば口を開くから中身を取出し水にて洗ひ、別に酢に浸して置き、此れへ酢をふりかけ、五分位に切り、朝鮮に若布を水に浸して柔かく洗ひ、細に刻み、前の二品と共に混ぜ合せ、別に赤味噌と白味噌を等分に摺り、此へ酢と砂糖を入れ能く攪り酢を加へてどろ〳〵に溶き、此を蜆にかけ、前の三品をよくまぜ合せて器に取つて侑めます、其色には上へ白髮葱をそへて出します。

商況

債券現物特電（三十一日 前日との比較）

東洋拓殖 京城電氣 朝鮮銀行 朝鮮殖産 南滿鐵道 [illegible]

公債直取引（東京 三十一日 前日との比較） 九五、二〇

深川在米特電 三十一日 一四五、二〇

東京期米特電 三十一日 二四〇 [illegible]

大阪株式特電 三十一日 [illegible]

大阪三品特電 三十一日 [illegible]

大阪期米特電 三十一日 [illegible]

朝鮮物產特電 三十一日 [illegible]

雜報

●生絲跳返す 最近の消長は前日の低落を示したるが本日は市場にて相當反發し一前値より二十圓方の跳返しを見たり

●綿絲は好勢 千五百五十圓

下關相場

●精白依然持合

●粗布協定談 高値五十錢

建値約五六圓の下

●片栗粉漸進

●煉乳の其後 九圓說唱へ產地へ

●芳香原料は閑散 勵行二十錢

京城正米

京城雜穀

南大門の廻穀

仁川現物市場

釜山穀物市場

仁川期米 三十一日前場 三錢安

吉 行賀仲買店

●遂に動かず 市場零閑

●約會は平穩

戰雙方新甫の作

●新甫內氣配

錢上鞘の唱へ 十五錢乃至二十

●趣味益加らん

●六月限は最早前天災期の變動激甚

●三限受渡內容

▲主力株の閑門戰

北濱たより

▲流船株の不良

仁川米豆取引所 三十一日の五月限 前場 賣買取組高

▲賣下げ一段落

利 仲買店

石大阪木谷精米所 神戶へ五千五千石積送

演藝案內

大正館 電話八七三

滿員日延 須磨の仇浪 黃金館 電話二六三七番

壽座 電話五七八

黃金館 黃金町四丁目 電話二六三七

流經新藥レスノリン 月經 常盤藥院

製材機械原動機 其他一切付丸鋸共 賃貸又は割安賣却 鑛山機械專門製作 南大門通五丁目 電話一〇四番 中根商會

ひぜん水 大阪市西區新町通二丁目 本家 田知本和三郎謹製 各藥店に販賣す 振替大阪二八一八番

專賣特許 實用新案 鈴木式一本管噴霧器

●本器は各地縣農會の指定品にして購求者に對して多大の補助金を交付しつゝあるは如何に本器の卓絶せるかを證するに足るべし

製造發賣元 大阪市西區本田二番町 鈴木松次郎商店 電話長西三九三二番 振替大阪九六五一番

（番說明書は申込次第無代送呈）

果樹苗木

苹果苗、紅魁、祝、紅玉、倭錦、國光

以上五品種各貳年生壹千本以上 特價壹千本に付貳拾圓にて提供仕り候間何卒御用仰付被下度奉願上候

特色 品種正確 青森瓦斯 慶南三浪津驛前 發育旺盛 無病健全 振替京城六五〇 林田三浪園

値上廣告

コークス壹噸に付五十錢値上

右四月一日より前記之通り値上致候間以紙上謹告仕候

瓦斯電氣株式會社 京城長谷川町五十五番地 コークス取扱所 南豊商會 電話一九二六番

特約販賣所 龍山元町四丁目 泉商會

販賣所 京城南大門通三丁目 電話三九〇番 淸水商店 電話五二八番

天然葡萄酒

天然葡萄酒は貧血虛弱者並に婦人產前產後の營養料として全國各病院大醫の常用を蒙る生葡萄酒也 白札、銀線、金線、紺札、冠印、金札、六種共全國の信用ある藥舖和洋酒店食料品店並に洋物店に有之御最寄にて御購求奉願上候

發賣元 東京市京橋區鈴屋町 振替口座東京七五五八番 長井越作

關西代理店 大阪東區道修町 振替大阪八六七 藥種商田邊五兵衞

無双醇良清酒

品質無双 衛生無害

首藤合名會社吟造

精白米卸小賣 キリンビール サッポロビール 醤油 龜甲萬 シトロン 三矢布引サイダー 各種

朝鮮發賣元 首藤京城支店 黃金町（電話一一七一番）

醫化學諸器械 K 仁川本町 北島藥店 京城本町永樂町角 北島藥店支店 電話三三四・振替京城六七番 電話七六一番

藥種賣藥卸商

汽車

越後大評定

第百七十五席　早川貞水口演

光圀公行脚奇談

元起は田舎親爺が、光圀公とも知らず、無遠慮な問ひを出すので笑ひを忍んで聴いて居ると、親爺は一向平氣なもの　爺『お前樣御城下の芭蕉ケ辻と云ふ所を見さつしやつたか　光『ウム見て參つた　爺『さぞおつ魂消つたことだらう、何んでも天下の四ケ津と云つて、仙臺に江戸に京都大阪と並んで偉え所だ、中にも米こ來れば仙臺に限る、昔仙臺の米を分つて貰つて食つて居るやうなものだ、私が國の殿樣は、江戸へ御出でになるときは公方樣が土下座をさつしやると云ふだ、光圀公御笑ひなされて、光『成程々々の目に入るものけ、小島の日に解らぬと云ふ譬への通り、それに違ひない井の内の蛙大海の大きやかなるを知らず、ア・元起愉快さうやなと、頓て勘定を拂ひ餘り味噌漬の茄子が上味で御坐いましたから、之を御求めになり、ぶら〳〵御出掛けになりましたが、路の程一里ばかりも御進みになると餘り味噌漬を召上り過ぎたから咽喉が乾いて耐らぬ、彼の畑の出で居る百姓家で湯なり茶なり所望してくれぬか　元『委細承知仕りまして御坐います』と元起は百姓家の臺所口より　元『少々御頼み申す』と云ふと老婆が出て來て　婆『ハイ〳〵　元『吾々は行脚の僧で御坐るが鹽辛い物を食べた所、咽喉が乾いて甚だ難儀いたす、どうか湯なり茶なり一杯頂戴いたしたいもので御坐る　婆『アいま湯を沸してる所だが、未だ能く沸きませぬ待ち遠しければ、其處に出がらしの茶が御坐ります、茶碗も小柄杓もある筈、勝手にのまつしやい　元『左樣なれば此の茶頂戴いたすと茶碗に滿々と汲取、持つて出ると、光圀公は何と云つて、御年齡七十に渡らせられますから、自然道中御疲勞を覺え、恰度門口に新米の括り俵が三俵ほどあつて、腰を掛けるに好い工合でございますから其俵へ御腰を掛けて居らせられる所へ元起が茶を持つて頻りに美味しさうに召上つて居ると、奥の方から老婆が火吹き竹を持つたまゝ出て來て『出しがらの茶では美味くあんめえ、今湯が沸いたから之を飲まつしやい』と云ひながらヒヨイツと門口を見ると光圀公新米の括り俵の上へ腰を掛けて居らせられるから、老婆は突如箒を手には飛掛り、持つて居た火吹竹を以て、光圀公の頭をポカーリ打つた、光圀公驚き給ひ『何故に予を打つのか』と頭を押へ横飛びに逃出すを老婆は跡おひ睨みながら、婆『此生臭坊主奴が伜と嫁が夜の目も寢ずに括り上げ御領主樣へ御覧に入れる大切な、新米の俵へ腰を掛けるちうことがあるか、馬鹿坊主米と云ふ字は八十八と書くでねえか世の中に何が有り難てえと云つて米くれえ有り難てへものはねえ其那な事は人に説いて聽かせる出家の身でありながら其蓍の上へ腰を掛けるちう罰當りがあるか、打殺してやるから覺う思へ

四月一日より二日迄
見切札より壹割引

今回歸國に付き商品全部見切賣出し致し候處御蔭を以て大略整理を終り候は全く平素の御愛顧と深く奉感謝候猶殘品有之候間特に一月二日の兩日壹割引にて提供可致候間御出掛の程願上候

京城本町一丁目
秋父名仙
縮緬半襟　丸木屋
電話一三四二番

お聞きなさい

▲米國で持てる日本男●●●●●●　米國紐育に貿易商を營んで居る佐竹手志馬は昨年春頃からボルトン生れのテベツツ女と相思の間柄となり十一月中婚約して本年一月廿四日式を擧ぐる手筈であつたが手志馬先生フト嫌氣ざして破約を申込んだ、女は黙いて再三同棲を迫つたが肯かないので名譽毀損婚約不履行の名義で十萬圓の損害賠償を裁判所に提起し、法廷に立つた際は『世界廣しと雖も私の添ひたい男は手志馬サンの外には御坐りませぬ』と手放しにやつたさうだが、其裁判の結果はまだ判らない

▲三升酒の總監●●●●●　金色夜叉の荒尾讓介のモデルと謳はるゝ西久保警視總監は大學時代には三升の酒を呷つて尚ほ平然たりし程の豪の者であるが併し日本酒の出ない御馳走なら出席は御斷りだと云ふ宴會の席でコップなどは見るも厭だと片付けさせて日本酒をチビリ〳〵『慈酸芳醇が世界の何處に在る日本人が毛唐の眞似をして洋酒を飲んで居るやうでは國運の發展期す可からずだ』と二十八貫小山のやうな身體で氣焔を吐く

▲堕落教師の萬引●●●●●　大阪府東成郡鶴橋町の土屋義行（三〇）は元新潟縣立中學校で英語科と柔道教師をやつて居た男だが曾ては早稻田大學にも學び相當に學問のある男だがだん〳〵堕落をして遂に萬引專門の泥棒となり十五日大阪心齋橋筋の高島屋で百圓餘の萬引をして取押られたがその他十合、三越等で數百圓の萬引をした事を自白し、尚ほ同人の家には萬引をして來た賍品が山と積まれてあつたさうだ

▲八年間無缺席の生徒●●●●●●　相州小田原第二小學校卒業生後藤はな子（一五）は入學以來八年間缺席は勿論只の一度も遲刻したことがなかつたさうだ、此外青地操子（一五）は八年間に只一日休み操子の妹鈴子は六年間無缺席で通したといふ事だ

四月二日九星
舊二月三十日己巳
本命九紫南滿先勝

▲九紫●　自分本位の事有日新事見合　西方は吉暗劍方▲一白●　傳き事有日新事手控　萬事は吉一切のかけ事を禁ず▲二黒●　頭痛の日　轉居開業入門名弘金件求　醫院●婚禮金貸業等萬吉▲三碧●　實收の日　轉居開業入門金件婚禮　古き證書を改むる等萬吉▲四緑●　善心の起る日　轉居旅行出產名弘金件縁組婚禮事業を創る等萬吉▲五黄●　巧妙なる日　男子は技倆を知られて立身を促し　女子は望外の福を得る時　大吉祥の日也▲六白●　騒の日　新事手控萬事は吉衛生に注意せらるべし▲七赤●　愛嬌のたらぬ事有日　新事手控　萬事は吉女子は行儀を守らるべし▲八白●　盛んなる日　轉居入學求職金融組合　行　商賣盛　相談を始る等　萬吉

ダリヤとカンナ

本園のダリヤは既に定評あり
ダリヤとカンナの種類の豐富なること栽培段別の多きは半島第一位なり其他蔬菜、草花種子、果樹、殖林苗木等定價表無代進呈す

京釜線鳥致院
朝鮮興農園
電話鳥致院二七番
振替京城三二七番

値上謹告

家庭化粧料
ホーカー液　各一瓶ニ付　一錢値上

謹啓　陳者弊舗發賣の理想的家庭化粧料ホーカー液は品質の優良價格の低廉を以て而も至容の卓効神の如しと汎く世上一般の御好評を賜はり御愛用の旺なる事他に比肩する物無之有樣に御座候然る處、世界的影響に煽られて商工界未曾有の大恐慌を來し候折にも係らず各位平素の御眷顧に酬ゆべく從來極力平價の維持に努力致し申候、然るに諸要急増殆んど無限の觀を呈し續々落積せる貯藏原料の大半を費消致候のみならず今やホーカー液特種美容原料及關係原料の狂騰は本舗をして遂に値上の已むなきに立到らしめ申候、品質の低落を防ぎ品量の遞減を戒め、而して本舗の主義たる品質本位の優良善美を盡さむには値上斷行また餘儀なき儀に御座候、何卒昨今の如く諸原料暴騰の折柄御寛容を以て淺頂にも御賢察なし被下度偏に御願申上候、自今益々實質主義の爲に奮闘努力致す覺悟に有之候間倍舊の御愛顧奉希上候　草々謹言

ホーカー液
ホーカー白粉
ホーカー美髪液
ホーカースポート

東京神田和泉橋
本舗　堀越嘉太郎商店

朝鮮銀行

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

京城
電話（國）三一〇六、一二六〇、一二六一、一二六二
振替貯金口座京城三三三番

支店出張所
東京、大阪、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、長春

右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

最上醤油

京城本町三丁目
田中支店釀造
電話七六四番

英米及我邦政府
專賣特許
滋養強壯料

▼甚しき臭味を忍びて、肝油を飲用すべき時代は去れり▲
▼咀嚼して美味無臭、容易に定量の肝油を食用し得べき▲

河合龜太郎氏創製
◎肝油ドロツプス

（現品縮寫圖）

肝油が一般の虚弱者、蒲痩者、結核性素質者、營養不良に起因する眼病患者、腺病質の兒童等に對し、治療上缺ぐべからざる滋養劑として内科、眼科、小兒科等の專門家に處方せられ、卓効を奏するは、醫療上の定論なり、然れども其特有の臭味、甚だしく不快なるが故に其服用を嫌忌せらるゝを慨し、河合氏多年苦心研究の結果、形狀洋菓ドロツプスに似て、麥芽糖及び可溶性の含窒素物を基礎とし、一顆毎に精製純良の肝油一瓦宛を正確に含有し、乳化完全にして、分布極めて細密、美味無臭にして而かも容易に食用し得べき『肝油ドロツプス』を創製す、本品は從來、肝油諸製品に優り、服用に面倒なる手數、攜帶の不便、變敗の迅速なる等の缺點なく、殊に本品の肝油たる事を忘れ、兒童は勿論何人も好んで食用し得ること、酷暑の候と雖も、冬季と異る事なく、消化吸收の作用頗る良好なる事とは本品の最も優秀なる特色とする所なり。

肝油含量一顆一グラム
一日二回乃至三回服用
五歳以下　一回一顆又は二顆
十歳以下　一回二顆乃至四顆
十五歳以下　一回三顆又は六顆
大人　一回四顆乃至八顆

用法
普通菓子の如く食すべし、又は小刀を以て細片に剪り冷水或は溫湯にて嚥下にするも妨げなし

定價
五十顆入　一瓶金七十錢
百二十顆入　一瓶金一圓五十錢

登録商標　專賣特許
◎複方肝油ドロツプス
肝油の含量を半減し、有機燐、有機鐵●及び石灰、規那等を含有せしむ

專賣特許　登録商標
◎肝油ドロツプス
肝油含量一顆一瓦に麥芽糖及び含窒素性物を溶して成る

如斯人は滋養料◎肝油ドロツプスを用ふべし

一、顔の色が蒼白くて艶無き人
一、皮膚の紋理が惡くザラ〳〵してゐる所謂あれ性の人
一、身體一般に貧血してゐる人
一、是といふ病氣はなくても何と無く弱く感冒に罹り易い人
一、筋肉の目立て痩せてゐる人
一、手足が冷て耐られぬといふやうな纎弱い人
一、色が蒼くて肉痩せ、而して活潑ならぬ所謂腺病的の小兒
一、頸が細長く、頬が痩け、咳嗽や痰の人並より多く出る所謂結核素質のある人
一、筋肉を太らせ、無病壯健に元氣よく活動せんとする人
一、身體一般に脂肪氣の少き人
一、顔や手先きを滑こくし度人
一、產前產後の滋養を計らうとする人

如斯人は滋養料◎復方肝油ドロツプスを用ふべし

一、骨の故障即ち佝僂病骨軟化其の他種々の骨病ある人
一、營養不良から來れる眼病、例へば夜盲症や網膜貧血に罹れる人
一、腺病（瘰癧）に罹れる小兒
一、發育不全の小兒
一、貧血症になつてゐる人
一、肺結核其他結核的の病に罹つてゐる人
一、腦神經衰弱、ヒポコンデリー、ヒステリーなどの神經病に惱まされてゐる人
一、陰萎、遺精などの生殖器神經衰弱に罹れる人
一、病後の衰弱を速く回復したい人
一、心臟病に罹れる人
一、右の外種々の病に罹つてゐる人の滋養物として理想の良食物である

▲賣捌＝全國到る處の藥舖。洋酒食料品店。化粧品店。小間物店▼

本舖
ミツワ石鹼
ミツワ椿油
ミツワ家庭藥
肝油ドロツプス
御園化粧品

發賣元
◎
登録商號
東京市日本橋區橘町四丁目
藥劑、滋養品、石鹼、香粧品、小間物問屋
丸見屋商店
電信略號◯ミヤ……振替口座東京七一〇番
營業部電話特長浪花三〇、四四八、四四九、四五〇番

京城日報

第二版

一日朝刊（夕刊と合せて八頁）

本紙定價　一部金三錢　一ヶ月金五十錢　三ヶ月　[illegible]

廣告料　[illegible]

發行兼編輯人　[illegible]　印刷人　[illegible]

發行所　京城太平通一丁目　合資會社京城日報社

電話　[illegible]

滿洲の近情

[illegible]の度を増し、殊に露國官憲と邦人との關係頗る圓滑にして、官憲と交涉事件に就ても、從來見るが如き[illegible]る本邦貨物は主として[illegible]來り、近時は從來に比し著しく其額を激增せり。石鹼香水等の如き化粧品[illegible]我邦の物質に對する嗜好は決して一[illegible]時勢現象として見るべからざるも[illegible]如何なるものを有するかを窺ふに[illegible]は商業地としても有望ならんも工[illegible]今回開始に決せる、モント瓦斯利用の[illegible]事業は斯界の發端的[illegible]き運命を有せり（門司）

京城日報　興味ある戰爭

獨逸は開戰以來、無比の大作戰を計畫し、屢々吾人を驚かしたるが、今回のヴェルダン戰も亦、獨逸の雄大無比の大作戰たるを失はざる也。獨逸が二月二十二日よりヴェルダン大攻擊を行はんとするに先ち、西北及び中央、東南等の諸地點に於て、其々他方的攻擊を試み居たりしは、佛軍全線に亙りて、牽制的行動なりしやの觀ありたり。

之れに對し、聯合軍は、必ずや今春三四月の交を以て、西方全線に、決勝的攻勢を開始すべしとは、何人も豫期せる所なりしが、獨逸既に其の作戰を看取し、聯合軍の完備未だ整はざるに先ち、反對に大攻勢に轉じたるは、獨逸決心の大に存する所あるを、推察するに難からざる也。現下の狀況に於て、日時の遷延と共に、獨逸兵力の減耗、國力疲弊の免かれ難きは、彼亦既に之れを知らざれば、此の際、寧ろ勝敗を一擧に賭するに如かずとなし、先づヴェルダン大攻擊を行ひ、續いて全線に大激戰を試みんとするものゝ如し、然れども此擧や、獨逸が寧ろ其兵力の漸次涸渇を、自ら示すの前兆なりと見るを得べし。

獨逸の此の大作戰は、單にヴェルダン陷落を以て、足れりとするものに非ず。即ち獨逸は、ヴェルダン攻擊を敢行せば、必ずやジョッフル將軍が、他地方の大兵を割いて、ヴェルダン救助に赴かしむべく、然る時は、其の寡兵の部分を突破し、一擧に獨逸は作戰の大眼目たる、巴里の突進、カレー殺到を實行するにあるべし。ジョッフル將軍が、多數の豫備隊を有しながら、敢て動かず、地方豫備隊のみを以て、ヴェルダン防禦に當てつゝあるは、蓋し玆に見る所あるが故なるべし。

ヴェルダンは、西部戰線の樞要地點にして、獨軍一度之を奪取せば、巴里は、唇亡びて、齒寒きの感なき能はず、且つ聯合軍が、愈々攻勢に轉ぜんとする時は、全軍の回轉軸たるべきの地點たり、されば此一要塞の運命は、西部戰場の勝敗の因て定まる所なりとするも、敢て過言に非ざるを思ふ。もとより此の一戰の結果が、戰爭の終局を告ぐべしと見るは早計なるべきも、此の戰爭にして獨逸の敗北に歸せば、少なくも之より戰爭の終局に對し、其光明を認むるを得べく、然れば此の戰爭が、戰局に關して、有力なる大戰爭なる事は、明かなる次第なりとす。而も獨逸の戰鬪力が、レーヂ、ナムール、モーブージ要塞攻擊の際に比し、大に其の差あるを見れば、更らに彼等の近狀を察するに足らん。要するにヴェルダン戰が、大に興味ある戰爭として、世界の注意を惹きつゝある、又故なしとせざる也。

隣邦時局の觀察（五）

布施知足

昨年十二月の二十日頃雲南の叛亂が初めて傳はつた時日本の各新聞へ來た電報には雲南は廣西と相應じて獨立を宣言せりとあつた、此相應じてと云ふのが今度の動亂に就て其形勢を推察するに何よりの鍵であつて、革命黨の計畫は中央から容易に觀の届き兼ぬる邊鄙の邊境に事を擧げて其から各省の響應を待つと云ふのであつた事が知れるのである、政府を仆すと云ふ終局の目的を達する爲には何れは要衝の地に旗を樹てゝ敵の死命を制すといふのが必要には相違ないがそれは何も自分の兵を其處まで進めなくとも唯其土地を自分の味方に引入れて其處は其處だけで獨立せればそれで可い、元來中央から雲南に往くには街道が七つ位ある筈で一番便利なのは先づ南に大廻りをして佛領河内から汽車で雲南の界の老開に往きそこから更に雲南府に這入ると云ふ往方である、時に依ると政府も初は此路から討伐軍を繰出す筈であつたが鐵道の使用を佛國政府に交涉した所斷然拒絕られて仕方なしに揚子江筋を選んだと云ふ事である、政府が當時討伐方針として定めた所を聞くと動員兵數は十萬人之を二隊に分けて本隊七萬人は曹錕將軍を總司令として漢口宜昌重慶を經て揚子江に沿うて進ませる、別動隊三萬人は將軍馬繼增に率ゐさせて湖南から貴州に侵入させる、別に廣東の龍覲光將軍に其手兵を率ゐて廣西から直に雲南を衝かせる、大體から云ふ計畫であつたが革命軍の方は早くから手筈が調つてゐたので其行動も政府軍よりは大分早く獨立の宣言をすると同時に將軍唐繼堯が都督として蔡鍔を其の所謂護國第一軍の司令として四川に向はせ李烈鈞を第二軍司令として湖南を經て湖南に進ませた、そして其軍の全數は專門家の計算に據ると約三萬二千人だつたと云ふ事である、革命軍の方略としては先づ四川を取つて其處から陝西に逮べる其處で軍容を調へて高きに據つた勢で蒸地に北京を衝くと云ふのであつた、此軍略が當初は能く分らなかつたものだから當時の報道は揣合に依り區々で或時は革命軍の志望は四川に據つて天下三分の計を爲さんとするに在りと傳へられ、或時は革命軍の先鋒四川境を廻つて陝西に入らんとすと傳へられ更に或時は革命軍の軍略は四川の攻略に日を費すを欲せず隴偏へに重慶に向はんとするに在りと傳へられた、處で革命黨の此計畫は最近一週間位前までは大體一つも成功して居なかつたのである

北鮮の山水（25）

東拓理事　村田俊彦

八、咸南の浦輪

渤海の故都

新昌より西方數里の地、俗に渤海の古都と稱する所あり。平野を隔てゝ遙かに蕭條の古都と相對す。若し渤海に臨み、崇岡を負ひ、湖水右に溶々たり、河流左に浩々たり。顧みる形勝を爲す。空山主無くして亂鴉飛び荒原日暮れて寒烟迷ふ。渤海の民族は殆んど靺鞨族にして、靺鞨族中最も勁健なりと稱せらる粟末部に屬す。北史及び文獻通考等に據れば、靺鞨族に粟末、伯咄、安車骨、拂涅、號室、黑水、白山の七部あり。粟末部は高麗に接し、伯咄部は粟末の北に在り。安車骨は伯咄の東北に在り。拂涅部は伯咄の東に在り。號室部は拂涅の東に在り。黑水部は安車骨の西北に在り。白山部は粟末の東南に在りと。但し此部族も時代に依り變動ありしなるべし。而して上古及び中古に於ける此等幾種の靺鞨族部が長白山脈の左右より、滿蒙にかけて割據し、和和し相侵せし有樣は、歐羅巴に於けるフランクスの各族が北歐の山地に據り、クランクスの各族が蘇格蘭の溪谷に散在せるが如くなりしならん。フランクスには文明各國の議會の濫觴とも云ふべき各會の集會行はれたり。即ち當時未だ曆なきを以て、日を以て時を定むるを得ず。新月又は滿月の時を期して、酋長等林間の高所に集まり、族の政を議せり。渤海の靺鞨族中にも此に類せし事ありしや否や、余未だ之を知らずと雖も、或は是れありしなるべし。我國には之に類する史實を見ず。蘇格蘭に就てはサーウオタースコットの詠せる有名なる湖上の美人なる詩あること、人の能く知るところの如し。靺鞨族に於ても或は該詩中のロデリックデユーの如き老雄、フヒッツゼームスの如き英將、エレンの如き美姬、アランの如き伶人も多ありしやも測り知るべからず。或は是ありしならん。文獻徵すべきものなく、今之を談る能はざるを遺憾とす。渤海の國を建てしは[illegible]近し。唐の則天武后の時、契丹の酋長李盡忠が營州の都督趙翽を殺して[illegible]長白山の東北に據るや、乞々仲象なる者、亦共に走りて唐に叛し、唐の冊官を斥けて降らず、子祚榮に至り遂に靺鞨の族及び高句麗の餘族を容れ、自ら南面して震國と號せり。是れ渤海の起源なり。其建國の年は實に我元明天皇の朝新羅の聖德王の時に當る。今より一千二百餘年前なり。渤海と稱せるは後唐と和し、唐より此號を受けたるなり。乞々仲象は史書多く靺鞨人なりと傳ふ。然れども或は高句麗族なりと說く者あり。姓を大と云ふ。文物亦進みて、既に有[illegible]族にはあらざりしが如し。然るに其の制度は[illegible]國の年より二百十五年を經、我醍醐天皇の朝、即ち新羅の末代より三世目の哀王の時、契丹の爲めに亡ぼされたり。今より一千年餘前に當る。契丹は即ち遼の國なり。渤海の亡ぶるや民高麗に移住するもの甚だ多かりしと云ふ。渤海は我が聖武天皇の朝來朝し、方物を獻じ、其使臣位階を授けられたることあり。爾後二百餘年間、時々入貢せり。渤海側の史を見るも、其二代の王たる武王の時、使を日本に遣はし日本の使朝臣蟲麻呂來りたること、其嗣王たる文王の時、又使を遣はして朝臣田守等來りたることを記せるを始め、其後に於ても亦同日本と交通を絶たざりし記錄を存す。北青の平野が渤海の都なりしや否やに就ても、亦有力なる反對說あり。或は渤海の都を以て北滿洲の寧古塔邊と爲す。渤海人の領古塔方面に擴りしことあるや否やは別問題とし、都の位置に就ては北青[illegible]

倚聲會詩存

結社　[illegible]

[illegible]

同（韻）　[illegible]

爾來經年解帰除。松井[illegible]日深。四鎖雲烟無覓處。名人亭下水如襟。

之亭曰　[illegible]

同（二）

虚○榮○何○事○寬○金○錢○（雲煙）傳○遊○滿○泉○我○採○

柴○（撫松）世○外○渾○忘○長○日○（非坡）一○竹○

同○是○合○天○涯○（結社）四個分明勝似一陰

之亭曰　[illegible]

出獵覺一羽　　撫松

殷・殷・啼・禁・寒・空○春・雪・飄・花・崎・嶇・風○淺・

獵・溪・山・何・所・獲○非・鳩・非・鵲・又・非・鴻○

之亭曰　所獲乃獵婆春雪

自松偃史池田翰翁爲余揮毫乃和

其韻以表謝意　　撫松

蒼○龍○捲○起○硯○池○波○騰○上○扶○雲○氣○態○多○白

嶽○山○頭○與○外○客○南○遊○半○意○如○何○

之亭曰　一二有如胸裡雲烟傾底雷

句語

[illegible]

日報俳壇

雉子郎選

立春

立春や旅情ほのめく句の力　浦南

春立つや麥ばかりなる島の畠　麗水子

如月

如月の温室に牡丹赫つさ　邱聲

土室に腐る菜惜む二月かな　麗水子

朧

荒普請に町延びて行く朧哉　北星

住よし長屋預かつて家の灯朧　同

笛の御に陸近き知る海朧　山民

土堤の影に舟皆消えし湖朧　同

朧夜や濤しぶきする船障子　東村

喜びを秘めて町行く朧かな　雲帝

法名を讀得て人の墓朧　韮城

朧夜や佯狂と知るは妻一人　橙黄子

□麗水子、晶山兩氏御住所下記まで至急御一報を乞ふ。龍山漢江通十一、楯目省介（橙黄子）

▲廣告▼

株券失効公告

一韓國銀行株券甲第一六八七二號瀨戶山金之丞殿記名株券紛失ノ屆出ニ付今日限リ無効トス

大正五年四月一日　朝鮮銀行

購買入札公告

一電信電話用ケーブル、碍子、眞棒、竿金額、乾電池、篦木以上五種

右希望者ハ昨日ノ總督府官報ヲ見ヨ

大正五年四月一日　朝鮮總督府遞信局

京日案内

普通（[illegible]）

▲石本など野村　買入改質報參上　京城本町一丁目（旧[illegible]）　野村書店　16

▲學生諸氏　▲前學期分の御不用の教科書類高價買入　京城本町二ノ三二五　電二七　ツボヤ書店　453

◎雇入　年齢廿歳より廿五歳までの男子店員數名至急入用希望者は來談　龍山三角地前　田金物商店　電四八　476

乾電池は　巴商行　電話一四二五番　436

櫻印　優良

今―今◎すぐ申込まれよ―今―　京城本町一つ四丸　電一三七八　8

▲▲石本買入　御報參上　地方送金　京城本町二　森田文正堂書店　電話八六五　351

官衙會社商店に　[illegible]

番外（[illegible]）

圍碁大特別　會費一圓五十錢迄　來る四月二日（日曜日）正午より開催　川上花亭　賞品◎一等二十圓◎二等十圓三等金指環以下十等迄　11

▼鑛物各種分拆　坂本分拆所　京城太平町二の二五　493

▼電話ユヅル（但し京城）　御希望の御方は相當附金の判使あり　龍山電話二四六へ御來談を乞ふ　5

配達店員至急入用　二十歳前後、身體强健の者要保證人　本人來談　京城北米倉町　玄米製乳舍　14

岡村介石　明治町二丁目　フランス敎會隣　12

はねつき　うちみ　くじき等　一切の治療御依賴に應ず　明治町　柔術道場　15

内科　小兒科　皮膚病　花柳病　胃腸病　京城北米倉町（注連内醫院跡）　錦城醫院　院主　金谷友經　電話九九五番　415

▲全部空氣輪揃　同じ賃金で乘心地の良い空氣輪　小門通　西二七二　一進組車帳場　477

質屋　新築土地家屋倉庫附　明治町樞要の地　家屋貨物あり　御希望の方は官吏向　朝鮮巴城舘上　電話二〇三番　吾郷　495

▲産婆、マッサージ　南山町三丁目消防詰所前に轉居　電話一四四〇番　三浦小糸　497

販賣店各位にも御德用の考案

愛飲家本位に考案したる破天荒の景品附

謹告

愈々各位の深厚なる御同情に酬ゆる爲め愛飲家本位に考案したる大景品附販賣店各位の御德用になる大賣出を決行致します益々御引立御愛飲の程願上ます

■景品區域　朝鮮全道及安東縣

■賣出期間　大正五年自四月一日至六月三十日

■景品箱數　一萬二千箱

■景品引換券　櫻麥酒一打に付甲種景品券一枚

注意　但し一本宛購入者に對しては假引換券を發行し十二枚に達したる時右景品券と交換す

■甲種景品目錄

△一等	金時計（ウオルサム十八金）	金八十圓	十二本	金九百六十圓
△二等	婦人持金時計	金五十圓	十二本	金六百圓
△三等	長濱白縮緬	金二十圓	四十二本	金八百四十圓
△四等	勸業債券	金五圓	六十本	金參百圓
△五等	腰提莨入	金一圓半	二百四十本	金參百六十圓
△六等	櫻ビール壹本宛		四千八百本	金千五拾六圓
△七等	口付煙草（しらぎ又は朝日）		四萬貳千八百五十二本	金二千一百四十二圓六十錢

計四萬八千本　價格五千八百九十八圓六十錢

■抽籤場所　京城商業會議所（八月三日午前十時）

■景品引換　朝鮮全道各特約店（安東縣を含む）

■乙種景品目錄

△一等	勸業債券	金八十圓	一本	金八十圓
△二等	自轉車	金五十圓	三本	金百五十圓
△三等	商品切手	金二十圓	六本	金百二十圓
△四等	貯蓄債券	金五圓	二十五本	金百二十五圓
△五等	裏地壹反		百五十本	金百[illegible]圓
△六等	口付煙草（朝日又はしらぎ）		一萬[illegible]本	金五百九十二圓五十錢

計一萬二千本

■總價格七千八百十一圓十錢

注意……前記甲種景品附の外に一箱（四打入）購買者に對し右の乙種景品券一枚宛を進呈す

空籤壹本もなし

サクラビール大賣出し

サクラビール代理店

神戸　合名會社　鈴木商店

京城府南大門通二丁目

京城出張所

電話[illegible]　電信略號　ケイゼツカスズキ[illegible]

軍隊雪解にて困難

露都來電公報に曰く昨今は雪解の時期にて且つ湖沼附近は何處も洪水を起し軍隊の行動上非常なる困難を感ずるに至れるにも拘はらず全戰に渉りて戰鬪繼續され二十七日夜土軍はトレビゾンド東方に於て激烈なる逆襲を行ひしも大損害を蒙り退却せり(露國電報)

學習院へ行幸

天皇陛下には豫て仰出されし如く三月三十一日午前九時鷹司侍從長御陪乘波多野宮相以下の供奉員を隨へさせられ宮城御出門學習院に行幸大迫院長の御先導にて便殿に入御東宮御所皇子殿下並に御在學中の各若宮殿下に御對顔あらせられ十時二十分院長の御先導にて君が代奏樂中に卒業式場に臨御院長より各科御修業の兩皇

行幸日取

既報の如く四月三日は神武天皇二千五百式年祭に就き御親祭の爲め四月一日東京御發輦 天皇陛下には奈良縣下へ行幸あらせられ又皇后陛下には三重、奈良兩縣並に京都府へ行啓の爲め三月二十九日東京を御發輿あらせられたるが 兩陛下の御發著日割左の如し(東京電報)

▲天皇陛下御發著

四月一日 午前八時三十五分宮城御發輦同八時五十分東京驛御發車午後五時五十分名古屋驛御著車行在所名古屋離宮▲二日午前十時五十分名古屋驛御發車同十一時名古屋驛御發車午後三時二十五分奈良驛御著車、行在所奈良倶樂部▲三日午前八時二十五分奈良行在所御發輦同八時四十五分奈良驛御發車同九時四十三分畝傍驛御著車神武天皇山陵御親祭同十二時十分同驛御發車同十一時五十八分奈良驛御著車奈良行在所還幸▲四日奈良行在所御駐輦▲五日午前七時三十分奈良行在所御發輦午前七時五十分奈良驛御發車同十一時五十五分名古屋驛御著車行在所名古屋離宮▲六日午前七時四十五分名古屋離宮御發輦同八時名古屋驛御發車午後五時東京驛御著車宮城御還幸

▲皇后陛下御發著

四月一日 午前八時二十分宇治山田御泊所御發輿午前九時山田停車場御發車午後一時四十分奈良停車場新著車御泊奈良倶樂部▲二日奈良御泊所御發輿同八時四十五分奈良驛御發車同九時卅四分畝傍驛御著車神武天皇山陵御參拜同十一時十分畝傍驛御發車同十一時五十八分奈良驛御著車御泊所奈良倶樂部▲四日午後一時十分奈良驛御發車午後二時廿分京都驛御著車御泊京都御所▲六、七、八日京都御滯在▲九日午前七時五十分京都御所御發輿午前八時二十分京都驛御發車正午名古屋驛御著車御泊名古屋離宮▲十日午前七時四十分名古屋驛御發車午後五時東京驛御著東京宮城御還啓

子並に若宮殿下に御修業證書を捧呈し次で中等高等各級修業學生總代に證書を一括して授與し山根東宮武官長より初等科中等科優等生三名に東宮殿下よりの賞品を賜ひ終つて陛下には講演場に臨御優等生の講演を聞し召され十一時三十分還御相成りたり(東京特電)

文武官陞叙

三月三十一日宮中に於て叙位式を行ひ林前駐伊大使以下五百九十名の文武官華族に對し位階陞叙の御沙汰ありたり主なる者左の如し(東京特電)

叙正三位 特命全權大使從三位勳一等男爵 林權助

叙從三位 東京高等工業學校長正四位勳二等 手島精一

防備軍參謀長

青島防備軍參謀長奈良少將軍務局長に轉補せられたるに付後任左の如く任命ありたり(東京特電)

陸軍歩兵大佐 參謀本部課長 森岡守成
免本職補青島防備軍參謀長

橋本中將巡視

第九師團長橋本中將は三十一日朝新義州著守備隊を巡視し正午義州に一泊の上夕刻引返し鐵道ホテルに一泊の上四月一日朝平壤に向ふ筈なり(安東電報)

下關取引解停

下關米穀取引所は卅一日午後共筋より豫て買取引の停止を解かれたり四月一日四、五、六月限の立會を開始す仲買人細田勝三郎は定款第卅六條第一項第八號に依り除名されたり(門司電報)

滿洲領事會議

新條約實施上の打合せ

滿洲各地即ち奉天、安東縣、長春、遼陽、鐵嶺、營口等の各領事は毎年春季旅順の關東都督府民政部に集まり一任事務官としての會議を開くを例とせるが本年も三月二十七日民政部會議室に會議を開き大連、旅順兩民政署長、陸軍部參謀長等も之に加はり民政部よりは都督、民政長官、警視總長、外事總長、其他列席し主として所管警察事務に關する打合せを爲し日支新條約實施に伴ふ課稅及び警察問題に就ても協議する所あり斯くて本會議は僅々一日間にて終了し都督府事務官たる各領事は廿八日乃至二十九日に其々出發任地に歸還したるが聞く所に據れば南滿洲における日支人雜居に伴ふ課稅法及び警察權に就ては支那側より夙に提案あり又新條約第三條に依り南滿洲及び東部內蒙古において邦人の居住營業をなすに對し又同條約第四條の規定に依り農業及び之が附隨事業を合辦せんとするに對し右に必要なる登錄申請につき支那側より其の手續の提案あり是等は將來邦人の滿蒙發展上大に研究を要する事項なるを以て今回の事務官會議にては支那側の提案を基礎とし之れに關する各自の意見を述べ打合せ協議したるものにて大體の方針は既に決定し居る爲め格別の議論も出でず隨つて僅々一日間にて會議終了せし次第なりと(大連)

大連上海貿易

豆粕の輸出增大す

南支の動亂が滿洲と南支那との貿易に何程の打擊を與へしかは未だ明白ならざるも營口方面は別とし大連上海間の貿易は未だ格別の影響を受けざる如し埠頭事務所に就て聞くに榊丸及び神戶丸を以てする大連上海間の航路は今春以來頗る景氣付き往復共に荷客滿載の姿にて殊に顯著なるは豆粕類の輸出增大せし事なり揚子江一帶は大豆の生產地にして各地に舊式油房の設あり相當豆粕の製出を見るも價格の廉なる代りに品質粗惡なる爲め近來上海方面においては菓子の原料又は畜類の飼育料として滿洲產出豆粕を需用するに至れり是れ豆粕輸出の增大せし所以にして其の豆粕は上海を集散市場として福州、厦門、廣東との間に取引せられ內には厦門より更に南洋瓜哇等へ移送せらるゝものもあり此外雜貨類の取引も漸次增加しつゝあり而して今日のところ是等の貿易品は南支動亂のために左したる影響を受けず毎便相當の輸出を見つゝありと(大連)

年度末の郵貯

前年より百廿萬圓の增加

年度末に於ける朝鮮郵便貯金の現勢は預入人員八十七萬餘人金額七百七十五萬圓に上り之れを前年に比すれば人員に於て十三萬人金額百廿萬圓の激增を現はし居れり唯本年一月中の最高額にて朝鮮郵貯の新記錄を作れる八百二十萬圓に對比すれば約五十萬圓の減少となり居れど右は納稅貯金の引出されしに過ぎず乃ち例年郵貯は年末より年初に亙り納稅並に年末出費多端等の關係上著しく減少を見るの常なるに本年度に於ては恐らく昨年より納稅期變更の結果前記の如き最高額の數字を現はせしは從來年末を期限として徵收せる租稅を二月に納付して差支へなきに至りしより納稅者たる農民の多數は年末に收得せる資金を二月の納稅準備の爲め一時郵貯に預入せし爲めなりし如く其の昨今減じ來れるは當然の結果なり尙今後は持直して增進すべし

忠州黃色煙草

忠州特產黃色煙草は年々其聲價を揚げつゝありしが昨年度の成績不良に鑑み專賣課忠州出張所にては特に本年度に於て品質の改善に全力を傾注すべく一般耕作者に對し制限以上の耕作を爲さしめず品質の向上に努むべきことを諭し指導中なるが從來の經驗上收穫期は殆んど同時にして乾燥作業の時期を逸する憾みあるを以て本年は持に溫床苗育圃を指定し組合員各自の耕作反別二分の一を溫床苗圃に委ぬることゝし溫床被用寒冷紗を共同購入し準備全く整ひたるを以て本月中旬より播種に著手し本月中に終了の豫定なるが地床播種は四月一日より著手すべし本年の耕作反別は直營四町步指定耕作二十六町步民間耕作三百二十町步合計三百五十町步にして收穫豫想十萬貫なりと因に本年度に於ける耕作資金貸付金額は一反步十圓一人最高四十圓の割にして四月五日漢湖農銀より二萬八千九百五十九圓放資の筈なり

鐵道沿線植樹

ニセアカシヤ白楊泥柳 柳其他合計三百萬本

鐵道局にては豫て報道せる如く其の▲沿線の風致を加へ且つは防風水に備へんとて植樹を企て既に實施し居れるが最も多き樹種はニセアカシヤにして其他濕地用として泥柳、白楊、川柳等の苗木乃至挿木等あり本年春期に配布すべく昨年鐵道局龍山苗圃に播種のニセアカシヤは本年六十萬本育成の豫定なりしが昨年南期出水の爲め大部枯死し漸く殘部十七萬本の育成を見たるが更に京鐵道に交涉して種子五斗を送る代價として苗木四十萬本の分與を受くる事と爲りたるより都合五十七萬本として之を全鐵道各保線長管區に分配植樹せしむる事とし

▲一保線長管區 平均五萬七千本とし目下其々配布中にて又草梁保線長管區にては五萬本開城保線長管區にては三萬本の請負植樹を爲さしむる事と爲り居れるが其の他の各管區育成苗木を合算する時は合計七十三萬一千本を算すべし以上は總てニセアカシヤのみなるがニセアカシヤの適せざる溫地にありては泥柳、川柳、白楊等を以て之に代ふる事とし之が苗木の育成植栽に努むる所あれども尙此種の樹種にありては單に苗木のみならで挿苗をも爲し得るより南大門、西大門、龍山等の驛構內にて枝條切取を爲し挿苗を製作し以て京釜線湖南線等の

▲濕潤地方に配布 植樹せしむる事とし目下是亦配布實施中に係し其計數百六十五萬八千三百本の見込なり尙ニセアカシヤ苗木育成の爲め本年度に於て各保線小區百十九箇所に一小區平均五合宛計六斗の種子を配布し尙春期に於て播種せしむる事とせしより豫定通りの發育經過を見んには來年には一小區に於て二千五百本宛の苗木を得る見込にて特に平壤構內元山苗圃用畑地には本年よりニセアカシヤの播種を爲したる爲め來年より特別配苗を爲し得る都合なり此外清津、元山、大田の各建設事務所に對しても其々配種を爲し其割合は清津建設事務所二斗、元山大田兩建設事務所各一斗宛都合四斗の多額に上り更に大田、平壤の兩所に對しては柵垣代用として

▲連翹苗木一千本 宛を配布する事とし之を以て將來官舍の生垣を作らしむる豫定にて育成中なり是等の苗木乃至枝條は種子等は總て南大門、西大門、龍山驛構內植付のものより採種せしものにして種子のみにても昨年採收のもの三石に達し龍山苗圃に於ては本年一石三斗の播種を爲せり今試に

▲大正五年度 に於ける各種苗樹配布植栽のものを各保線長管區別に表示すれば左の如し

保線長管區	ニセアカシヤ	泥柳川柳挿木	計
龍山	七〇千本	二九三千本	三六三千本
大田	七七、	三三三、	四一〇、
草梁	一〇七、	五五、	一六二、
裡里	五七、	二五〇、	三〇七、
木浦	五七、	一一〇、	一六七、
開城	九七、	一五五、	二五二、
平壤	九七、	一〇〇、	一九七、
新義州	五七、	一三〇、	一八七、
鐵原	五七、	一三二、	一二九、
元山	五七、	一一〇、	一六七、
合計	七三一、	一、六五八、	二、三八九、

黃海植林終了

東拓今後の方針

東洋拓殖會社の黃海道に於ける植林は過去五年間に亙り繼續して京義線南川黃州間鐵道沿線の仁王山小鶴山白下山等約三十の諸山に實行し山野面積は國有林の貸附を受けしもの及び民有林の買收を合せ合計一萬六千町步を算し植樹數一千萬本以上に達したるが會社にては同方面に於ける植林は昨春を以て一段落とし今後は山野の相當程度に達する迄補植を行ふと共に天然稚樹の保育に重きを置くべしと

土地査了期

大正七年十二月末

臨時土地調查局の事業は豫定の如く着々進捗し居れるが今度の局內事務終了順序に付當局の談を聞くに三角測量の外業は昨年十二月末を以て終了し目下其の整理を急ぎつゝあれば遲くも今秋を以て全部完成すべく同年來漸次減員しつゝあれど同員多數罷免さるべし而して準備調査は本年三月終了を告ぐるに付茲一二箇月にして約七十名の局員は失官する譯なるも地方廳及び他官廳への轉任あり實際の失職者は少なかるべし亦測地作業は來る十二月末を以て終了約二千名の從事員は本年度末迄に罷免の止むを得ざるべし次で地位等級係事地の審理乃ち調理課の事務は大正六年夏を以て終り續て內部の整理諸報告書等の作製に移り全く事務を終了して朝鮮土地調查を完成するは大正七年十二月末なりと

國境間島(六)

撫山生

移住鮮人 日韓併合當時にありては破竹の勢を以て、陸續踵を接して、移住し來れるも、其後總督府の施政宜しきに適ひ、間島の如く不便なる地に生活の途を求めんより、寧ろ鮮內地に在りて、業務に勵むを安全なりとし、茲兩三年間は以前の如き盛況を見ざるも、移住鮮人の大部分が咸鏡北道の人民にして、同道の國境地方が山岳重疊し、而かも樹木は濫伐の結果表面の肥土は流失し、目下耕地として耕耘し居れる箇所にても、漸く砂礫地を掘鑿して、野生に等しき雜穀を作るに過ぎず。之に反して間島は、數百年間清韓兩國の中立地帶として住民を引拂ひ、森林の採伐は素より、田地の耕作を中絕せしめ自然に土地に休養を與へし處なれば土壤の潛勢力豐富肥沃にして、聊かの肥料を用ひず、優に咸北の倍額を收穫し得る狀態にあり。故に間島に鮮人の移住するは恰も甘きに集る蟻群の如きものにて、大勢如何ともなし難し。將來咸北の耕地開かれ、間島と等しき收穫を得るに至らば兎も角、現在の狀況にては到底之れを防遏し得可くも非ず。加之最近支那政府は國境鮮人の移住を歡迎するに力め、自國人以上の優越權を與ふ可しと稱し、鮮人の吸集策を講じつゝある位なり。昨年末の調査に依れば鮮人の移住戶數二萬四千七百二十一戶、人口男九萬三千百四十五人、女八萬三千七百八人、合計十七萬六千八百五十三人を算す

保護機關 移住鮮人の保護機關としては、龍井村に領事以下鮮人巡査に至る迄約二十名、局子街分館主任以下約十名、頭道溝分館主任以下約七名、百草溝出張所約四名計四十名內外の人員を以て、二十萬人に近き同胞の保護に當り居れるは、一村童の群羊を牽ゆるにも喩ふ可く、一人當り五千人內外の保護或は監督の任に當る割合なり。而かも領事館は鮮人の訴訟裁判と、支那官憲との交涉に大部の時間を費すと云ふ有樣なれば積極的なる指導啓發的の事業の如きは、容易に望む可くも非ず。

間島の將來 間島に於ては同胞の保護機關を擴張して、帝國の威信を示す可き方法を講ずるを以て、最も適當の措置とすべし。而して鮮內地に於て徒食せる多數の鮮民を移住せしめ、敎育宗敎の機關、醫療機關、金融機關等設置せられ、更に淸會線、又は吉會線の開通と共に、豆滿江の架橋も實現せられ、此鐵道に接續して輕鐵の敷設を見るに至らば其富源の開發は期して待つべきものあらむ。要するに間島は處女地なり。故に其前途は頗る多望なりとす。(完)

軍主要部發著

駐箚軍と新設師團

四月一日發表せらるべき朝鮮新設師團主要部決定に伴ひ駐箚軍司令部の名義變更と共に第十九師團司令部の設定を見之と同時に第九師團司令部は金澤に歸隊すべく同じく旅團聯隊各司令部も更代する筈なり其主要部龍山驛發著豫定左の如し

第九師團司令部 四月廿五日午前九時卅三分發
第十九師團司令部 四月十七日午前八時四十分著
步第七八聯隊本部 四月十八日午前十一時四十六分著
步第三五聯隊本部 同廿六日午前九時卅三分發
第卅一旅團司令部 同十四日午前七時四十八分著 同日午前九時卅一分發
第卅九旅團司令部 五月五日午後九時五十分著 同日午後十一時卅分發
步第七三聯隊本部 同日午後十一時[illegible]分著 同六日午前[illegible]時五十分發

連帶線新驛開始

三月卅一日より九州線宮崎出之口間青井岳局一般運輸營業開始され鐵道局との連帶貨客取扱を開始せり

人事消息

▲佐々木藤太郎氏(慶南道長官) 一日朝入京
▲河東鉉氏(鑛業家) 三十一日夜入京同上
▲吉田萬之助氏(鑛業家) 三十一日朝入京不知火旅館へ
▲坂口和三氏(岐阜縣代議士) 三十一日夜入京不知火旅館へ
▲アイリアム、アクレー氏(米人) 三十一日夜入京朝鮮ホテルへ

南言北語

コロコロ

聯合國は益々結束を鞏うして飽迄も獨逸に當る腑を堅めたらしい▲戰爭は無論確實に最後の勝利を得る迄繼續しよう▲其れ許りでは未だ充分でないから中央貨物局を作つて全然敵國が物資の輸入を防遏しようと約束した▲此の樣な事は初めから最うチヤーンと約束して居る筈だのに、と云ひたくなる▲而し獨逸が妙な媾和風を度々吹かして居るから萬が一つも其の手に乘るものが出來ては困る▲結束の上にも結束せねばなるまい亞米利加大使などは暇暇歸國を無期延期にしてジロ〳〵見て居るからナア却々何うして油斷はならぬよ▲毎度妙な算盤を引つ張り出して恐縮するが▲恐縮序手に今日も鳥渡恐縮して見よう▲千八百五十年から千九百十三年に至る世界の產金額は約二百四十億圓の餘である相な▲處が歐洲交戰國の戰費は既に八百億圓を超えて居る▲世界の產金全部を以て來てもまだ其の四分の一を越ゆるに過ぎぬ▲戰爭の當初から日割にすると一日の戰費は約一億五千萬圓弱になつて▲一人の兵士を殺すに約二萬五千圓位かゝつて居る▲人命も茲に至つては亦却々廉ならずだ▲其れから八百億圓を廿兆の金貨として並べると約四萬四千哩となり地球を一周しても尙ほ餘る▲而して其等の多くが米國に流れ込んで居るから米國が何と云はれたつて怒られぬ筈だ誰だつて餘り惡い氣はすまいよ

黨人懷柔策

中央政府より奉天將軍に宛て帝制既
同仁を旨とし有能者は出來得る限り擢用すべしとの訓令ありたり(奉天)
も曖昧となり動もすれば段氏の意に逆ひ近親に對して觀望の意思を洩
署費一萬元を增加し之れが機關を擴張せん事を外交部に請求中の處此程

授爵者の辭退

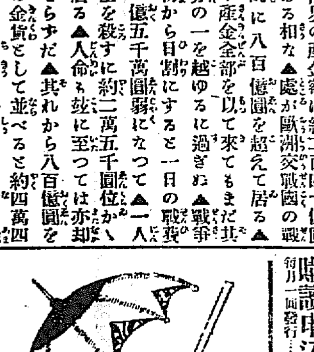
三等男都合十名なるが此度帝制の取消と共に爵位の存續は不安當なりと
ろべく警戒を嚴にするの要ありとて從來の練軍一營の外第二十七師より
察の眼を晦まし密かに銀貨の僞造に著手し贋造銀貨を行使し
るが去る二十四日午前七時三十分頃何れよりか出で來り奉山府松昌洞趙

齒科 橋本齒科醫院
京城南山町三丁目(京城電氣會社横入る)
齒科醫學士 橋本清次郎 電話二九〇二番

日韓書房
新版報告
田尻稻次郎著 歐洲戰局の將來 定價一圓五十錢 送料十二錢
巖谷小波編 學校家庭 教訓お噺 定價一圓二十錢 送料十二錢
鹿子木員信著 永遠の戰 定價五十錢 送料八錢
村上浪六著 人生の裏面 定價壹圓 送料六錢
橋本留喜著 新式 自習辭典 定價五十錢 送料八錢
京城本町二丁目 電話[illegible] 振替[illegible]

開業廣告
●事件の大小に拘はらず頗る叮嚀懇切に取扱申候
●朝鮮語を解し申候
辯護士 三浦末喜
京城永樂町二丁目八二番地 電話一三〇九番

大陸婦人界
四月號出づ
●美麗なる口繪と共に金誌花を以て埋められたる四月號出づ
□米國人と醜業婦問題……有馬純清
□新しき良妻賢母の資格……井上秀子
□母として穩健なる研究心の必要……持地夫人
若さ女(字世の若き婦女子は必ず一讀せざるべからず)……新渡戶博士
□婦人の職業と家庭生活……安部磯雄
□此母にして此子あり……三輪田元道
□愛國婦人界の敎育事業……大橋主幹
婦人は人生の鼓吹者……內ヶ崎作三郎
□新しき女を一喝……老禪師
□戀愛と犯罪……松寺檢事正
□和田岬の悲劇……成田生
結婚發達史(工藤ドクトル)
令孃通信(お孃さんの紹介)
婦人問題の解決と大陸の發展……大陸婦人界社長 牧山耕藏
□泡雪なる日……ひろし
□世務と家庭……小松綠
□私のこの頃……三島夫人
おこづれ……石黑忠子
手紙の悲劇……角田[illegible]
母親達へ一筆啓上……太田秀穗
□家庭と電氣……島田氏
□女流俳家……菅木靜軒
□乳の注意……河野醫學士
□四月料理……櫻井ちか子
□京龍生花めぐり
小說家庭 懸賞人探し……海賀變哲
□八歲を頭に六人の子を持つ私……人見夫人
□渡邊高等法院長夫人の訪問記……婦人記者
□亡き良人の位牌に縋りて……姬路
□看護婦の日記
初號忽ち賣切れとなる 速に御購讀あれ
一冊廿錢半ヶ年前金一圓廿四錢一ヶ年二圓四十五錢郵稅一冊一錢
每月一回發行
購讀申込所 京城太平通(振替京城二一〇〇番)電話一〇七〇、二四〇〇番 大陸婦人界社
內地、支那、滿洲、朝鮮の各地書店に在り(郵便切手代用一割增)


大賣出し
四月一日より七日まで
洋傘に限り特に五步引
(H)
京城本町一丁目
平田商店
長電話六九五番

……を排除せず、[illegible]に反對して帝制の失敗に平かならずして[illegible]離聽せんとする者及び在野の政客等に對しては[illegible]視……[illegible]強硬なる態度を持せん事を望み省內の軍界を糾合して主戰的建議をなしたるが一說に依れば張作霖の態度少し[illegible]

●外交[illegible]擴張
[illegible]奉天交涉特派員馬廷亮は日本人雜居の後外交事務繁劇となるべきを以て[illegible]記道尹にして奉天將軍署の諮議官たる周筌本なり（奉天）

[illegible]張作霖の二等子[illegible]、馮德麟、吳俊陞の[illegible]許[illegible]、馬龍潭、裴其勳の[illegible]

●營口騎兵增加
[illegible]營口開河の後は匪賊の往來頻繁となる[illegible]

[illegible]數年前より同地方に[illegible]（三）[illegible]九[illegible]と共謀し去大正二年十二月[illegible]捕へられ目下服役中なるが主犯者たる[illegible]其の後所在を晦まし居た[illegible]

人形の話しなどして睦みゆくひこ足かろき春の街かな（ON）

●朝鮮のタングステン鑛

新鑛業令は愈實施＝現在の出願件數＝タングステン鑛＝鑛石の所在地と朝鮮の地質＝遙からず年産七百噸に達せん

待ちに待つた新朝鮮鑛業令は愈々今日から施行されることになつた、新令は先願權を認め、競願ある場合其重複部分に就いては

■願書到達日の早き

ものに許可せられるのであるから、本令で以て新に鑛物と認められた例のタングステン鑛以下新鑛石の發見者は今日を先途と其筋に願書を提出する事はいふ迄も無い其處で今日一日中に果して如何程の願書が集るだらうかといふことは新令の發布以來如何程の鑛山が發見せられ幾何の人が其實施期を待ち焦れて居たかと云ふことになる譯で

■却々興味ある問題

だが其は受込むで仕舞た後でなくては容易に判らない、世間の噂では三月中に百圓の收入印紙が三千枚賣れたとか此處四五日間に三百枚賣つたとか云つて今日の出願者は餘り當のある所謂では無い樣である、總督府の鑛務課で出願件數の推想投票をやつた成績に依ると最少數が九十件最大數が四百二十何件で當局ですら餘りに開き方の烈しいのを見ると却々判斷のつき難いのが判る、然し鑛業課では先

■四百件から三百件

までの間だらうといふ說が大部分を占めてゐる樣だから暫く之れに從つて置くとして扨て其鑛種は如何かと聞くと無論其大部分はタングステンで九割以上を占めるに違ひないといふ、道は世間のタングステン熱に徵して爭はれぬ事實であらう、最後は出願者の問題だが之は誰れも一寸豫想はつかぬ樣だけれども、發見者が朝鮮人に多く其れが隨分資本家を持ち廻つてゐる模樣に徵すると少くとも

■總數の三分一位は

同一地の出願だらうと觀測されてゐる、之に依つて見ても鮮內のタングステン熱が今や如何に高潮に達して居るかゞ大略推察される、數年前までは鮮內誰れ一人タングステンを說く者はなかつた、尤も併合前慶尙北道尙州郡若木面で發見せられて、朝鮮にもタングステン鑛のある事は確められたが

■採掘の價値

あるものは大正元年金剛山で見付けた山が最初である、此山は小笠原鍾氏の手から三井物産株式會社に移り今では江原、咸鏡、平安南北等の道を通じて六鑛區に亙つて盛に採鑛中である此他土石採取規則に依る

■現在の許可鑛區は

忠淸北道忠州郡に二區、淸州と堤川郡に各一區、忠淸南道洪城及び瑞城兩郡に跨つて一區、合計十一鑛區で忠北忠州郡にタングステンと共存する水鉛の許可鑛區があつたが今では期間が切れてゐる、官有地で掘つてゐるものは之れ丈けだが民有地で勝手に作業してゐるものは忠南の靑陽をはじめ同道から忠北江原の諸道に亙つてボツ〳〵あるさうである、其れからタングステンの

■買鑛移出を初めた

のは三井物産が最初で一昨年の夏靑陽附近から出た劣等の鑛石を買ひ込み愈々金剛山に送つて約五噸のタングステンを得た當時世間ではタンヌ事なするといつて大笑ひなした而已ならず

買鑛から精練までに八箇月も消費したけれども昨年の夏米國へ輸出した時には一噸一千二百圓で賣れたので遂に一部の人の注目を惹いた、其れでもタングステンはまだ價格はトン〳〵拍子で壓抑されてゐたが價格はトン〳〵拍子で上昇するし產地は慶尙北道まで發見された爲め大に世人の注目を惹き、昨秋の共進會以來朝鮮はタングステンで無ければ夜が明けぬといふ有樣になつた、從つて其輸移出額も

■近來は著しく增加

し大正二年には十噸を得、翌三年には三噸に減つたけれども昨年中には六十噸を出し本年は今までに既に五十餘噸を出してゐる、元來タングステンは主として石英脈中に含まれ、花崗岩や片麻岩の多い處に在るものだが朝鮮は

到る處此要件に適合して

あるから將來は各地に於て發見せられるに相違ないと當局者の談に依ると

■年產額七百噸位ゐ

になる事は敢て遠い將來では無いさうだ、果して七百噸に達するか否かは問題だが輸移出額の激增と共に今や

忠淸南北道から江原道京畿道などに亙つて續々發見せられつゝある事實に徵する時は將來益々有望である事は疑ふ餘地が無い、歐洲の干戈が戢らないで現今の價格を維持してゐる間にドシ〳〵發見採掘して早く國家の富を積み度いものである

●完全なる取締規則

宿屋料理屋飲食店藝妓酌婦藝妓置屋貸座敷娼妓營業各取締規則公布
＝內地のそれと異なる點＝
＝五月一日から施行する＝

一昨年來の懸案となり居りし宿屋料理店飲食店、藝妓酌婦藝妓置屋、貸座敷娼妓各營業取締規則は三月三十一日朝鮮總督府官報十九十五號にて公布せられたり、右の中宿屋營業取締規則は二十八條、料理屋飲食店營業取締規則は二十九條、藝妓酌婦藝妓置屋取締規則は二十六條、貸座敷娼妓取締規則は四十五條より成れるものにてその中附則を含み居り何れも五月一日より施行せらるべし、右に付き

▼山形警務總長代理は曰く

從來朝鮮に於ける是等營業者に對する取締規則は種々なる分子を含み居り不完全なる箇所多かりしを今回悉く改正したるものなり、即ち從來各道に領事館令、理事廳令、警務部令等あり殆んど之に從ひ設けられたるものにして個々別々なりしを今回三年餘の日子を費し各道の

▲地方の風俗習慣

に從ひ各道の風俗、人情、衞生等に就き巨細調查を遂げたる上にて總監部令として統一したるものにして各當業者と一般公衆との關係を能く參酌して立法せる文明的の法規なりと信ず例を擧ぐれば內地に在りては

▲當然娼妓と稱すべき者

に對し第二種藝妓、乙種藝妓、特別藝妓、二枚藝妓など種々の名稱を以て娼妓たる事を明かにせざりし結果事情に通せざる者をして多くの錯誤を生ぜしめ弊害の之に伴ふもの尠からざりしが今回名稱を一定せるため從來の如き誤解は全く除外せらるゝ事となれるわけなり朝鮮人にして蝎甫と稱せるものは之れを娼妓と稱する事となれり從來の取締規則には仲居なる者を認めたるも新取締規則に於ては仲居なるものゝ名稱を認めず

▲之を酌婦と呼ぶ

こととせり、然かも取締上仲居の名稱は消滅せるも事實に於いては仲居なるものは存置せらるべし、但し從來の酌婦と同一に取締るか如き事はなくその間自ら寬嚴あるは勿論なり妓生は朝鮮に於ける一名物なれば從來通り妓生と稱し藝妓として取締る事とせり、然して本令は五月一日より施行せらるべきも從來の領事館令理事廳令警務部令により許可を與へられたるものはその名稱の如何を問はず營業を認めらるゝものなり、次ぎに內地に在りては是等の營業者は

▲營業名義人死亡したる

時はその許可を取消したるものなるが本令にては營業名義人死亡の場合に於て新に許可を受くるを要せずその相續者をして營業を繼承せしむる事となれり又兼業に於ても內地にありては是れ等の營業者は同一家屋と否とに係はらず總べて絕對的に嚴禁せられ居るも本令にては絕對的禁止事項としては戶主、その家族をして雇人の周旋業を爲さしめざる事のみにして同一家屋內に於て

▲兼業を爲さゞる

限り之を認むる事と爲り居れり之等は相對的禁止事項とも言ふべく朝鮮に於ける營業者の特典なりとす、但し現に同一家屋內にて戶主又その家族が或る種の營業を爲す者と雖も本令施行の日より一月內に警察署に願ひ出で許可を受けたるものに限り本令施行後三年間繼續してその營業を爲す事を得べし、次ぎに料理店、宿屋、飲食店、藝妓置屋の營業地域の限定はなきも貸座敷營業者にはその地域を限定すべし但し鮮人娼妓に對しては當分の內營業地域の限定は爲さゞるも特に京城市の蝎甫に對しては最も

▲急速にその制限を爲す

べき方針なり、藝妓酌婦は警察署長よりその指定する醫師又は醫生の健康診斷を命令せらるゝ事ありとせるは彼等は常時客に接すべき稼業なるを以て健康を希望する點より規定せるものなりとす此の他に種々なる條項あるも主なる要點以上述べたる所の如し元來此の取締規則なるものは社會に於ける共同生活の必要より構成せられたるものなれば各營業者にありても愼重研究してこの法の規定する所に遵はれたきものなり

●地久丸の引揚

▲四月下旬より取掛る
臘に咸南難水端附近に於て座礁沈沒せし地久丸は其後神戶海上運送火災保險株式會社に於て競賣入札に附したる結果大阪の染料原料商加納安藏氏に二萬一千圓にて落札したる由にて同氏は曩に現場に出張視察したるが去る三十日南行の平壤丸にて一先づ歸阪したるが來る四月下旬より該船の解體引揚に着手する由なり（元山）

●阿片を呑んで人事不省

京城新町遊廓幸樓事鶴田方抱へ娼妓明月事金氏（二二）は卅日午前七時頃腹痛を催したるより昨年共進會頃遊興に來りたる氏名不詳の朝鮮人が腹痛に効能ある藥なりとて同女に與へたる藥を極めて少量服用したるに暫時にして昏睡狀態に陷りたるを以て居合せたるもの等は大に驚き其筋へ屆出でたれば即時本町署より醫官出張檢診せしに同女が吐き出したるもの及び飲用の殘部を取調べたる結果精製の阿片なりしこと判明し應急手當を加へし爲め生命に別條なし

●永樂町の女房殺し

女は內緣の妻＝加害者自殺を圖る
嬰兒血潮に弄ぶ＝四邊凄慘の光景

三十一日午後五時半京城永樂町二丁目十四番地料理店淸樂事中村某方下座敷表口三疊の室に於て近來稀に見る慘劇ありたり事實は本籍佐賀縣小城郡別府生れ當時京城南米倉町溝口方同居木挽職松本利一（三二）なるものが內緣の妻山口縣大島郡日良居村大字油良生れ當時前記淸樂の酌婦高瀨ふみ（二一）を殺害し

▲利一も同時に自殺を企て虫の息となりて昏睡狀態に陷りたるが利一は最初銳利なる白鞘の七首を以てふみの上に馬乘りとなり仰向きとなりたる女の前頸部に突き刺し兩三回深く抉りたるものの如く頸動脈及び氣管を切斷したる爲め鮮血に染まりて即死を遂げたり之を見澄ましたる利一は返す刀にて自ら

▲我が咽喉部に切りつけしも手元狂ひて死に切れざるより花合せたる細帶を以て自ら頸に捲きつけたるも力足らず死に至らざるより猶も右の七首にて左下腹部を一文字に搔き切りて大腸露出するに至りたるも尙死に至らず遂に右手の七首を逆手に握りたるまゝ仰向けに打ち倒れ七首の切尖は深く體に突き刺されて

▲昏睡狀態に陷り居たり其の慘劇の傍らにはふみが先夫の胤なる當年三歲位の男兒を中に座らせ居たるが斯る慘劇行はれしことゝて一層の恐れを感ぜられ頭を外向くる許なるが此の突然の事件に家人の驚き一方ならず早速其筋に急報したれば所轄本町署よりは奧村司法主任向笠警察署及び警官數名と共に急遽現場に出張して負傷の息ある利一に應急手當を加へし上總督府醫院に擔ぎ込ませ一方

▲ふみの屍體は檢證の上取敢へず其れが處置をなしたり四邊は鮮血物凄く迸りて疊著衣兩人の顏面頭部等一面血潮に染まり實に悽慘の極みなりしが傍らには刺身庖丁一挺ありたり引續き家人其他に就て取調ぶる所ありし然るに記者の探聞する所に依れば兩人は三年前より內緣を結び居たるものにてふみは本月十八日迄若草町櫻屋に奉公し十八日より前記の淸樂に住み替へたるものにて利一は常にふみの來るを强請しつゝありしといふ尙ほ此の慘劇の原因其他に就ては本町署に於て取調べ中なるが何れ後日詳報する所あるべし

●銀貨僞造犯人

悉く逮捕さる

黃海道延白郡龍鳳面祉倉里姜氏（五七）は大正三年三月頃より資金三千圓を提供し同所米穀商中鍋鳴（三八）が主となり同里の亡申允君及び同里生れ目下入獄中なる車大惇（三五）京畿道富川郡富內面淸川里生れ李雲先（五二）同里李春化（二五）水原郡生れ金致九（四一）同里洪渠（二五）黃海道延白郡海城面梧岩里生れ目下入獄中の李公集（四二）同郡鳳北面觀德里林竹堂（二〇）等と共に黃海道延白郡海城面梧岩里の人里離れし山中に於て二十錢銀貨數十圓を僞造し姜氏林竹堂の兩名に之を行使せしめ發覺したるものなるが其の筋にては未逮捕の犯人嚴探中の所二名は京城憲兵分隊の手に、殘り一名は仁川署の手に逮捕されたり

●蠣採船の難破

去る二十八日黃海道殷栗郡二道面の沖合にて一漁船の難破するを目擊したる一漁夫あり其旨海岸派出所に屆け出でたるより鎭南浦署にて取調べの結果右は龍岡郡貴林面蠣島の金能生（三三）の持船にて同日能洙は妻と二人乘りにて蠣採取に出で行き難破したるものと判明したり妻女は溺死して船と共に漁隱里の海岸に打揚られたるも能洙は未だ行衞不明なりと

入札書畫骨董
四月一二の兩日下見三日開札
忠臣名士の遺墨小切數十枚其他成寶も澤山に付下見の日特に御高覽の上見落しなき樣別に案內狀差上不申候
定期開會
京城南山町三丁目
佐々木聚古堂
電話二三三番

●景品附の櫻麥酒

朝鮮全道及び安東縣に亙るサクラビール大景品附大賣出しは需要家本位に立案せるものにして其景品總價格實に約六千圓に達し更に四打入一箱以上の販賣に對しては景品券一枚を添付し其他の購買者に對しては乙種景品券一枚宛を進呈其價格一千百餘圓合計金七千圓以上の大景品附の事とて非常なる盛況を呈するに至るべし

京城府告示第三號
大正四年度京城府歲入歲出豫算左ノ通追加更正ス
大正五年三月三十一日
朝鮮總督府府尹　金谷充
大正四年度京城府歲出更正豫算
歲出經常部
第十款　豫備費　金壹萬五千六圓
第一項　[illegible]
第十一款　基本財產造成費　金九千七百四十九圓
第一項　基本財產造成費　金百八拾參圓
基本財產造成費　金百拾八圓
歲出經常部計　金貳拾六萬貳千四百九拾圓
歲出合計　金參拾壹萬七千七百拾壹圓
大正四年度京城府歲入歲出追加豫算
歲入經常部
第四款　財產ヨリ生スル收入
第一項　基本財產收入　金六拾貳圓
歲入經常部計　金參拾壹萬參千七百四拾參圓
歲入合計　金參拾壹萬七千七百七拾參圓
歲出經常部
第三項　[illegible]
正誤　大正五年三月三十一日京城日報第三千七十四號第四面京城府公告第一行中朝鮮總督ノ下「府」ヲ削ル

公告
一金參拾圓
右ハ永樂町三丁目本莊彌之助殿ヨリ女子死亡葬送ノ際途中行列及供花放鳥ヲ廢シタルノ故ヲ以テ前記ノ通リ當學校組合特別基本財產ノ內ヘ寄附セラレタリ
大正五年三月二十八日
京城學校組合

寫眞製版
寫眞銅版、亞鉛凸版　寫眞出張撮影
最も熟練せる技術を以て最も迅速と可成親切を旨とし御高覽に可供候
京城日報社　寫眞製版部

京城壽座前　電話二七二
振替口座京城二三六七番
値段技術勉强地方は送料頂きません

村上唯吉著
心機一轉　定價十錢　郵稅二錢
右內鮮文とも出版出來候せり陸續御購讀願上候
京城日報代理部
申込所　京城古市町　孤松書院

新刊書御案內

書名	著者	定價
カイゼルの裏面	グレーペイン博士	九〇
女探訪	加藤[illegible]三郎	七〇
和服の作りやう	[illegible]婦人會編	六〇
畫家の妻	[illegible]	六〇
百鬼闘の粉粹	瀧澤紫水	三五
金魚のうろこ	上司小劍	三五
安易生活と食物の活用	山田耕衛	六五
女學校出の花嫁さん	奧野他見男	四〇
女は魔性である	駒元北馬	八五
伊太利から英國へ	本間久譯	一、三〇
珠玉鈔	松本苦味	九五
勞働運動の哲學	大杉榮	三五
哲學と文藝	桑木嚴翼	一、二〇
農村生活三十年	篠原嘉文	四五
李少南書帖	金圭鎭	二、〇〇

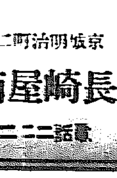
大阪屋號書店
京城本町　電話二〇八六　振替京城二五七三番

電一五六七番
旭町二丁目（京城府廳橫）
株式會社　京城葬儀社
二川屋事　中河原重吉
井上芳太郎
靈柩馬車の設備有之候
電話九五七番

母まさ儀豫而病氣養生中之處不相叶本日遂に死去仕候條明後一日午後三時途中行列を廢し大和町曹谿寺に於て假葬相營候間此段謹告候也
追て故人の遺言に據り鄉里に於て本葬施行可致候に付供花放鳥の儀堅く御斷申候
大正五年三月三十日
男　鶴田綱太郎
男　鶴田政喜
男　鶴田恒雄
親戚總代　釘本藤次郎
佐野末雄
梶原末太郎
友人總代　竹中多計吉
佐藤牛次郎

贊化病院
京城本町二丁目　電話二四二番
入院隨意
每日五名を限り無料施療す
醫學博士　古城憲治
岡山醫學士　上野亮藏

模範　牛乳
純粹培養　ヨーグルト
場主獸醫　肥塚正太
東亞牧場

寫眞機　寫眞材料

京城明治町二丁目
長崎屋商店
電話二二〇番

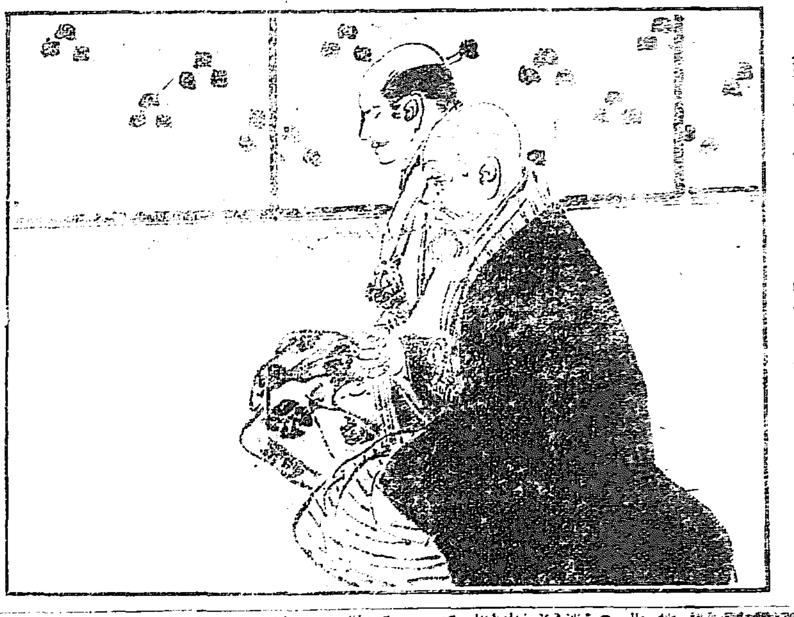
花柳病　外科專門
●梅毒　●淋病　●泌尿生殖器病　●睪丸病　●肛門病　●皮膚病　●婦人病　●神經衰弱
●六〇六注射　包皮其他手術每日
●診察無料　●入院隨時
京城長谷川町南大門通貫鐵裏
司生堂醫院

千生瓢 (170)

須藤南翠作　筒井年峰畫

調略（二）

「あいや暫く待せられい」と、甚左衛門尉は押止めて
「老功の入道殿、御遠慮少しも差はね。斯く申す尾藤甚左衛門尉、筑前守の旨を受けて、池田殿への使者でござる。秀吉が申す儀々、更めて御聽き下されい」と、威儀を正して吹聽する。
「御使者とあらば御口上承はらう」
「さらば仰せ聞けられい」と、勝入斎は穏かに座に就いた。
時に尾藤甚左衛門尉は、自席より進み出て
「北畠中將信雄卿、父祖の餘烈を以て、尾勢兩國の國司たれども、天資暗愚にして所詮武將の器でない。且又放恣驕奢にして、徒らに佞臣の讒言を信じ、謬りに輔弼の良臣を誅して、兵を擧げて秀吉を討たんとすること、言語道斷の所行でござる。依て今度其の罪を問ふため、不日尾州に出馬せんと存ずる。諸國の大名も、秀吉に味方して、續々麾下に集まりたる上は、御當家に於ても、何卒御與力下されたい。事平ぎし上は、大國の沙汰を御任せ申さうとの内意、聢と御聽き入れ下されたい」と、使命の旨を演説した。
池田父子は目と目を見合せて、少しく躊躇の色があつた。甚左衛門尉は、聊か聲を低めて
「是れ迄は秀吉より表向の挨拶でござる。甚左相考へ申すに、入道殿は、故右大臣家と乳兄弟の御間と申し、織田殿累代の老臣、現に三法師公輔佐の奉行職に在はすれば、當然秀吉御味方の事と存ずる。或は北畠殿が故右大臣家御二男なるが故に、直に織田殿と心得る輩もおざれど、是等は正閏を混同致いた說にて、聊かも取るに足らぬ儕でござる。織田殿と申さば、今天下に安土の三法師公を措いて、誰おざらうぞ。信雄の輩は故右大臣家の庶子でござる。殊に出て北畠殿御相續ある上は、既に織田家の人でおざらぬ。斯る順逆の道理に迷はるゝ入道殿御父子とも存ぜねば、必定御與力下さるゝ事と存ずる。此由を以て秀吉に返答申さば、定めて相悅ぶ事でおざらう」と、智辯を揮つて言ひ足した。
血氣壯んの之助は、膝を拊つて進み出た。軈て口を開からとする時、勝入斎は之を制して
「筑前守殿の口上、勝入逐一に承り申した。又尾藤殿思召しの節も、悉く了解仕つておざる。去りながら、此一舉に依て決すべき大事の際、我等一存を以ては、決し難い事おざる。明日な家子郎等を召し集へ、篤と評定致いた上、改めて御返事の申す」と、明かに答へをした。
「如何樣、御評定然るべうおざらう。さらば小可は旅宿に歸り、明日の御答をお待ち申さう」と、甚左衛門尉も納得して、大垣城を退出したのであつた。
入れ違ひに長島の使者が到着して、長々と信雄卿の口上を演述し、頻りに織田家の舊恩を說いて、是非に味方に屬して貰ひたいと申し込むのであつた。其說く所は、秀吉の口上と其位置を顛倒したまでで、理由であつたが、此方では、秀吉元來下賤の匹夫であつたのを、中國の探題とまで立身させたのは、全く故右大臣の重恩である。然るに、山崎の一戰以來、故右府の天下を横領して、三法師丸はあれども無きが如く、舊織田家譜代の大名に臨む時だけ、表に之を戴き、裏に之を排すること、不忠不義言語に絶す。剩へ三七郎信孝を亡し、今また我が身を亡さんため、累代の家老を三人まで誑り、我に叛かせたる條、罪跡明瞭である。今にして之を討たざる時は、逆に彼の謀計に陷るゝであらう。依て此義戰を思ひ立ち、德川殿にも與力の約あれば、貴老は必ず一味合體せらるゝ事と思ふ。速かに合戰の用意あるやうと申すのであつた。
聞けばこれも亦一理ある申し條である。孰れにしても大評定の必要を感じて、宗徒の面々に、急き登城を命じたのであつた。



東京 胃腸病院醫員
山内貞二氏診療に應す
京城南大門通三丁目
胃腸醫院
（電一六五九）
入院随意　院主 佐々木吉造

りん病　ばいどく　百円進呈
諸君特製上等品　合資特製二品　藥價一圓五十錢
九州帝國醫科大學
黴毒淋病藥は治療剤として病院等に於て賞揚配剤せらるゝ高貴藥なる事を保証す若し前述の證言に違へる事を發見せられ候はゞ金百圓を贈呈す
なき患者の爲に分析科學的治療を施し一度御相談あれ
仁壽物會の注意、近來類似品多し
其他到る處偽物を賣る奸商あり、商會製劑御購入の諸君は取扱所を御確め下さい
東京　京城　大連　青島
大阪有田
大阪グッドラッド商會
京城東部　販賣所

病を拂うて健康を増進するは次亞燐の特效!!
醫界推獎の次亞燐
現代最有效の滋養強壯として
次亞燐は大瓶、中瓶、小瓶の三種あり
▲適應症▼ 貧血 衰弱 病後 產後 虛弱 腺病
次亞燐 滋養大関
本舗 大阪道修町 小西久兵衛
次亞燐は全國藥店にあり

蘇峰德富猪一郎著　定價金貳圓　郵税十一錢
大正政局史論
總クロース 菊版四百卅頁
大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動した る幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也
大販賣所　京城日報社代理部
京城太平通二丁目　振替京城三〇番

日韓書房大賣出
一日ヨリ三日マデ三日間
賣掛一割引
見切品澤山

最上醬油
特許機械製
ほまれ味噌
絶對的品質本位
鮮滿釀造界唯一の名譽
始政五年記念物產共進會
金牌受領
釀造元仁川港
日本醬油株式會社
電話七一番 振替京城一五一七番
京城出張所
電話二四五番 振替京城三二二番

大經帶と云へば婦人衛生要具として最必用品
新案特別製壹具（金壹圓參拾錢）
新式 ね小便袋
定價（乳兒用一圓 大人用一圓五十錢 必ず男女申越あれ）
都の花
新式（ルーデサック）珍無類 十二個一圓 廿五個一圓八十錢
つや衣 一個七十錢 一個一圓 一個一圓三十錢
各種名子宮サック 郵送料各八錢代金引換廿五錢
臺灣、樺太、朝鮮、滿洲三十錢
東京深川區富川町三番地
發賣元 筑波商會

大阪商船仁川出帆

（電話七一番）（振替一〇八〇番）

○基隆丸	四月十日	釜山、門司、神戸、大阪行
×天草丸	四月七日	午後五時出帆
×宮島丸	四月四日	午後出帆
○信濃川丸	四月五日	後二時出
○鎮南浦丸	三月三十一日	後二時出
大連直航 安東丸	四月二日	後五時出
○大連直航 大連丸	四月三日	正午出帆
×湖州丸	四月十五日	
△福州丸	四月二日	午後二時出帆
○湖州丸	四月八日	
△南滿、油濁行（元山出帆）	月日	
○須磨丸	月日	午後二時出帆
△北陸丸	四月十五日	
平安丸	打狗行（大連出帆）	
○上海、北陸丸	四月一日	後十時出
新湖丸	四月十二日	後四時出

大阪商船會社仁川支店　電話（一二〇番）
京城切符發賣所　内國通運會社支店　電話七〇八

▲印中國沿岸各港行船客に對し門司にて割引の運賃を以て連絡す

共同汽船仁川出帆

北支那行（芝罘、大連行） 四月二日 午後二時 四月四日 前九時出

鎮南浦、平壤行 月日 後九時
元山、清津、城津、新浦各港を經て雄基行 月日 前八時出帆

（元山出帆）
阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店　山下回漕部
元山代理店　山口回漕部
京城取次店　河村運送店

朝鮮郵船

本社（電話一九二二番）
京城府南大門通
京城取次店　松原運送店

全羅丸	四月十二日	釜山發
京畿丸	四月二日	
咸鏡丸	四月六日	
成鏡丸	四月十六日	
慶尚丸	四月三日	元山發
昌平丸	四月一日	
鏡城丸	四月七日	
忠清丸	四月十二日	元山發
平壤丸	四月六日	
永興丸	毎月廿八回	元山發
盛德丸	四月四日	釜山發
山陽丸	毎日	釜山（浦項）發
義城丸		
三浦丸	四月五日	釜山發
海州丸	巨濟丸	毎日 釜山發
統營丸	慶尚丸	
順天丸	三日目毎	木浦發
慶興丸	四月一日	木浦發
公州丸	四月一日	木浦發
公州丸	四月四日	木浦發
宗信丸	四月五日	仁川發
江原丸	四月七日	仁川發
龍水丸	四月一日	仁川發
晋州丸	四月七日	仁川發
錦江丸	四月五日	群山發
南陽丸	四月十八日	若松發
平安丸	毎日午前	仁川發

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行 立神丸	四月九日	後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 立神丸	月日	後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 小倉丸	月日	後五時出帆
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸	四月廿六日	後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行 第三琴平丸	月日	後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸	四月八日	後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 大貴丸	毎月二日九日十六日廿三日	午後十時出帆

大池回漕店

日本郵船

上海、大連、太沽、牛莊行 三河丸	四月廿二日	正午出帆
相模丸	四月四日	正午出帆
高砂丸	四月十日	正午出帆

四月五日より五日間
三越の大賣出
よせぎれ見切反物例年の通り澤山取揃申候
（新柄子ルセル 流行の洋傘荷揃）
京城本町
三越呉服店

商況

大阪株式特電

和歌山紡	一一一	六五、〇〇
合同紡績	一一一	一八一
鐘淵紡績	一一一	[illegible]
同上新株	一一一	[illegible]
東洋紡績	一一	九九、二〇
大阪鐵	一	[illegible]

▲在滿邦人の[illegible]　歐洲戰爭[illegible]
滿洲地方を視察し此の程門司に歸來せる實業家の談に曰く[illegible]澁滯を來さゞるに至りしは慶すべき現象なり。狀態斯の如きを以て、近來邦人の數日に加はりて、支店の設置を見るに至れる類[illegible]至りては、舶來品を壓倒するの勢ひなり。綿糸綿布一時頽行不振の[illegible]のあれば向後同地を中心として附近一帶に於ける邦貨の活躍する餘地[illegible]業地として一廉[illegible]將來ある地と見ざるを得ず[illegible]撫順に於て此感を深く[illegible]るに至らざりしが昨今内地工業熱の勃興に伴れ資本家中にも滿洲の工業[illegible]のものと見るべし。要之同地は石炭の外、遼河の水利を控挽し、天然[illegible]